

年報

No.19

昭和63年度
佐賀県立博物館
佐賀県立美術館

はじめに

このたび、昭和63年度の博物館・美術館の事業概要をとりまとめました。それぞれ発足以来18年目、5年目にあたる年度で、開館以来の入場者数も年度当初には200万人を突破しました。また、年度の終わりからの吉野ヶ里遺跡の出土品の展示は、邪馬台国論争に一石を投じ、吉野ヶ里フィーバーの始まりとなりました。

さて、博物館常設展では「佐賀県の歴史と文化」をテーマに佐賀の自然と風土を背景に郷土の人々がどのように生活し、文化を育ててきたかを自然史・考古・歴史・美術・工芸・民俗の分野にわけて展示を行いました。また常設展も4期に分けて展示の画一化を防ぐ工夫をいたしました。なお、開かれた博物館・美術館をめざして、博物館教室を設け土器の復元実習や、博物館周辺の探鳥会など「土曜教室」を開きました。なお、常設展の一環である新収蔵品展においては、新発見の谷文晁の大作「山水図襖絵」を公開いたしました。企画展では、国立民族学博物館の収蔵資料をもとに「神々のかたち―仮面と神像展」を行いました。これには、佐賀の仮面のコーナーを設けて、県内の仮面の所在調査を行うなどの収蔵がありました。外部との連携の企画展では「佐賀県児童生徒理科作品展」「よみがえれ佐賀展」が開催され、創意と工夫が随所にみられる楽しい企画でした。

美術館の常設展では、近代の美術・工芸の分野で佐賀が誇りうる百武兼行・久米桂一郎・岡田三郎助などの絵画、古賀忠雄の彫塑、中里無庵などの陶磁器を中心に現代作家の作品までを幅広く展示しています。展示の工夫としても「館蔵品による裸婦展」など変化を持たせる努力をしています。なお、岡田三郎助の「花野」「藤山雷太像」が購入できましたことは収蔵作品に一段と重みを加えました。

美術館企画展では重要文化財などを全国から集めた「田園風俗画展」の企画のユニークさと、優れた美術品という両面からの評価をいただきました。なお、この企画は美術館5周年記念展として開催いたしました。外部との連携企画展では「佐賀県現代作家美術展」「日展」「ル・アープル美術館展」さらには「佐賀美術協会展」「佐賀県書作家協会展」「佐賀県写真協会展」「九州新工芸展」「佐賀県勤労者美術展」「佐賀県美術展」「佐賀県高校芸術祭美術書道展」「佐賀県学童美術展」などの企画展が続き、「宮地享記念展」も行われ、美術館では展示場不足の状況でもありました。

附設の美術館ホール・画廊・研修室も年々利用者が増加する傾向にあり、茶室「清恵庵」は城跡の濠に面して風情があり、茶会に利用されています。

佐賀県民をはじめとする御利用者の理解と温かい支援をいただいで心から感謝申し上げます。今後とも資料の充実、研究体制の強化、教育普及活動の活発化に努め、展覧会等を充実して親しまれる館運営を目指したいと存じますので、一層の御指導と御支援をお願いいたします。

平成元年10月1日

佐賀県立博物館長
佐賀県立美術館長

出 和 人

目 次

佐賀県立博物館

博物館の沿革	3
博物館日誌 昭和63年度	4
規模および施設	4
組織・職員名簿・人事異動	5
博物館歳出予算 昭和63年度	6
事業の実施状況	
1 昭和63年度 博物館常設展	7
2 昭和63年度 博物館新収蔵品展	11
3 昭和63年度 特別企画 神々のかたち —仮面と神像—展	12
4 企画展ならびにその他の展覧会 昭和63年度	18
5 博物館観覧状況調べ 昭和63年度	18
6 普及活動	20
7 資料調査	22
資料の概要—昭和63年度・博物館—	
1 購入資料	23
2 寄贈資料	25
3 寄託資料	26
4 資料の貸出状況	27
5 購入・寄贈図書 —昭和63年度 博物館・美術館共通—	28
茶室「清恵庵」の管理と運営の概況	29

佐賀県立美術館

美術館の沿革	31
美術館日誌 昭和63年度	31
規模および施設	32
昭和63年度 美術館歳出予算	32
事業の実施状況	
1 昭和63年度 美術館常設展	33
2 昭和63年度 美術館新収蔵品展	35
3 昭和63年度 特別企画 田園風俗画展	37
4 企画展ならびにその他の展覧会 昭和63年度	40
5 美術館観覧状況調べ 昭和63年度	42
6 普及活動	44
7 資料調査	44
8 ホール・画廊・研修室催しもの	44
資料の概要—昭和63年度・美術館—	
1 購入資料	46
2 寄贈資料	46
3 管理換資料	48
4 資料の貸出状況	48
佐賀県博物館及び美術館協議会	49
博物館・美術館職員名簿(平成元.4.1現在)	50

昭和63年度

佐賀県立博物館

博物館の沿革

昭和26年4月1日	佐賀県文化館設置条例制定、佐賀県文化館が設置される。
昭和35年4月1日	佐賀県文化館設置条例を博物館登録のため改正。博物館法第10条に基づき佐賀県文化館を博物館として登録する。 昭和36年、新博物館建設の気運が高まり、41年度に調査費計上。 明治百年記念事業として県立博物館を建設することになり、佐賀大学教育学部跡を敷地に選定、昭和43年度に設計を委託し建設計画に着手し、昭和43年度から昭和45年度にわたる継続事業として建設することとなる。
昭和44年1月21日	佐賀県博物館建設整備委員会を設置。
昭和45年3月31日	佐賀県文化館設置条例廃止。
昭和45年4月1日	佐賀県立博物館設置条例公布。佐賀県立博物館協議会条例公布。佐賀県教育庁博物館開設準備事務局設置。
昭和45年7月1日	佐賀県立博物館完工。佐賀県立博物館設置条例施行。博物館開設準備事務局廃止。博物館職員の発令、館長以下18名。佐賀県立博物館協議会条例施行。
昭和45年7月16日	佐賀県立博物館協議会委員を任命。
昭和45年10月14日	佐賀県立博物館開館記念式典挙行。
昭和47年3月4日	鉄器減圧樹脂含浸装置を研究室に設置。
昭和48年10月10日	茶室「清恵庵」を、市村清氏のご遺志により市村幸恵夫人から寄贈を受ける。 茶室落成式。
昭和50年9月20日	古賀忠雄作「岬の男」(ブロンズ) 前庭に据付完成。
昭和51年9月18日	皇太子殿下、同妃殿下「柿右衛門名品展」ご観覧のためご来館。
昭和51年10月22日	天皇陛下、皇后陛下「若楠国体芸術展」ご観覧のためご来館。
昭和52年12月12日	佐賀藩鑄造鉄製「カノン砲」(復元) 玄関前据付完了。
昭和53年5月4日	常陸宮殿下、同妃殿下常設展「佐賀県の歴史と文化展」ご観覧。
昭和53年11月5日	茶室「清恵庵」開室5周年5記念合同茶会開催。出席者約1,500名。
昭和54年7月19日	入館者総数100万名に達する。
昭和55年4月23日	古賀忠雄氏遺作(232点) 遺族より寄贈。
昭和56年4月17日	山口猛彦氏遺作(34点) 遺族より寄贈。
昭和57年5月10日	鍋島則子氏より工芸品(85点) 寄贈。
昭和58年2月7日	御厨俊江氏より御厨純一氏の作品(28点) 寄贈。
昭和61年3月17日	佐賀植物友の会(須古将宏会長)から植物腊葉(さくようーおしば)18,000点の寄贈。
昭和62年5月23日	天皇陛下、「森林と文化展」ご観覧のためご来館。
昭和63年4月15日	入館者総数200万名に達する。

以上のほか、多くの方々から貴重な資料を寄贈して頂きました。
ここには点数の特に多いもののみを記載しました。

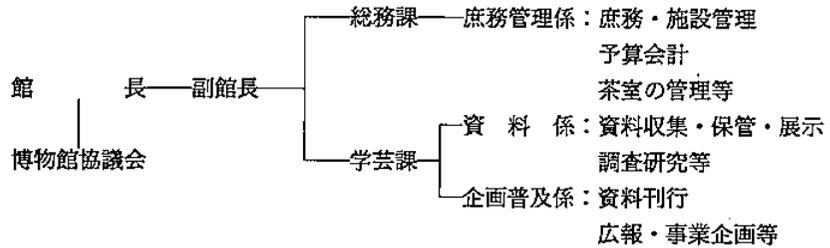
博物館日誌 昭和63年度

昭和63年4月1日	職員人事異動 第1期常設展「佐賀県の歴史と文化」(～4月21日) 昭和63年度新収蔵品展(～4月21日)
4月28日	日展(～5月22日)
5月5日	「子供の日」により常設展無料開館
5月28日	第2期常設展「佐賀県の歴史と文化」(～10月23日)
7月13日	博物館学実習開講式(～7月22日)
9月1日	木材恒久保存処理機夕吹2000型を車庫に設置
9月17日	第38回佐賀県児童生徒理科作品展(～9月23日)
10月1日	第8回よみがえれ佐賀展(～10月10日)
10月18日	農協共催小・中学生第14回交通安全ポスター展 第24回書道展(～10月23日)
10月30日	第12回佐賀県高等学校芸術祭美術・書道展(～11月6日)
11月19日	第38回佐賀県美術展(～11月27日)
12月1日	第3期常設展「佐賀県の歴史と文化」(～3月31日)
12月28日	執務納め式
平成元年1月4日	執務始め式
1月15日	「成人の日」により、常設展無料開館
1月28日	博物館研究講座「佐賀の仮面」講師 佐賀大学教授 米倉利昭
2月21日	特別企画 神々のかたち・仮面と神像展(～3月21日)
2月25日	博物館研究講座「仮面と神像—ブータンの仮面舞踏劇—」 講師 国立民族学博物館助教授 栗田靖之

規模および施設

本館		施設	
		ロビー(案内所・常設展受付)	349.5㎡
構造	鉄筋コンクリート造	3階建	
規模	敷地面積	30,926㎡	1号展示室 193.6㎡
	建築面積	2,149.1㎡	2号展示室 352.0㎡
	延床面積	4,638㎡	3号展示室 484.0㎡
			大展示室 523.5㎡
		中展示室 136.0㎡	
		収蔵庫並整理室 524.0㎡	
茶室		研究室 66.0㎡	
		館長室・応接室 60.0㎡	
		事務室 80.0㎡	
構造	木造平屋建	資料調査室 64.0㎡	
		茶道具庫 24.0㎡	
規模	床面積	車庫 56.0㎡	
		荷解場 86.0㎡	
		電気室 48.0㎡	
		ボイラー室(制御室を含む) 181.0㎡	
		その他 1,410.4㎡	

組 織



職 員 名 簿 昭和63年4月1日現在

課 名	職 名	氏 名	課 名	職 名	氏 名		
館	長	大塚正道	学芸課	学芸課長	小宮睦之		
副館長(総務課長事務取扱)		木下一義		資料係	資料係長	田中裕	
副館長		尾形善郎			学芸員	松本誠一	
総務課	庶務管理係	庶務管理係長			赤坂一憲	学芸員	蒲原宏行
		主査			葛見稔	学芸員	大隈博文
		主査			古川宣明	非常勤嘱託	浜野四郎
		主事		楠美智子	専門員	木下巧	
		主事		中島恭助	主(学芸員)査	宮原香苗	
		主事		石井康芳	学芸員	福井尚寿	
		事務員		坂井卓次	学芸員	山崎和文	
		事務員		小石武彦			
		技術員		戸川内匠			
		非常勤嘱託		真子昭作			
					計 23名		

人 事 異 動 昭和63年4月1日付

○転 入

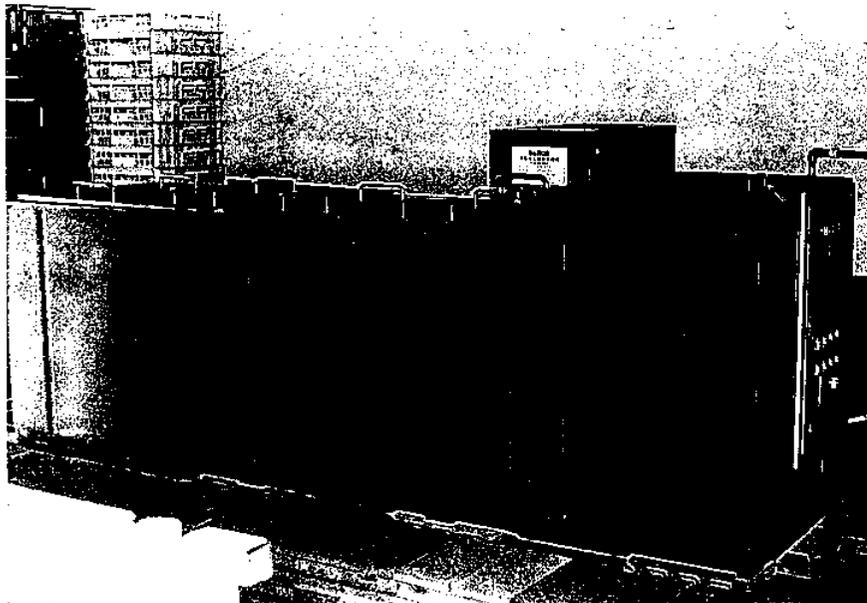
館長 出和人(佐賀コロニーより)
 副館長 尾形善郎(文化課より)
 主査 葛見稔(佐賀農芸高校より)
 〃 楠美智子(総務学事課より)
 学芸員 蒲原宏行(文化課より)

○転 出

館長 大塚正道(人事委員会事務局へ)
 副館長 高島忠平(文化課へ)
 主査 中村美沙子(県立病院へ)
 〃 藤口健二(文化課へ)
 主事 大島暁夫(大和養護学校へ)

博物館歳出予算 昭和63年度

科 目	予算額(単位千円)	科 目	予算額(単位千円)
(博物館費)		4 企画展費	4,701
1 博物館運営費	37,897	企画展開催費	4,652
管理運営費	37,001	理科作品展	49
会議及び研修費	517	5 常設展費	1,661
博物館協議会費	379	常設展示費	1,661
2 資料整備費	12,974	6 普及活動費	30
資料購入費	8,001	研究講座費	30
資料整理費	4,848	7 資料刊行費	487
資料収集費	125	8 茶室管理費	1,460
3 調査研究費	824	9 施設整備費	3,360
研究費	161		
調査費	663		
次年度調査費	107		
歴史美術調査費	70		
考古資料調査費	56		
調査刊行費	430	計	63,394



導入した「木材恒久保存処理機」夕吹-2000
 ※発掘された木製品を通常展示ができるように処理する機械。

事業の実施状況

1. 昭和63年度 博物館常設展

第1期 4月1日～4月21日

第2期 5月28日～10月23日

第3期 12月1日～平成元年3月31日

I 佐賀県の自然（1号展示室）

佐賀県は九州の北西部に位置し、北東部は福岡県、西部は長崎県に隣接する。北は対馬暖流が北上する玄界灘に面し、南は日本一の干満の差で有名な有明海が広がっている。

佐賀県を地形的に大別すると、脊振山地、西部丘陵地、多良火山地、佐賀平野の四地域に分けられる。脊振山地は県北部に横たわる脊振山・金山・九千部山などの山地で、古生代末期の三郡変成岩類と、これに貫入した中生代白亜紀の花崗岩類で構成されている。西部丘陵地は八幡岳・黒髪山・国見山などを含む熔岩台地で、新生代第三紀の堆積岩類と、その上に噴出した第三紀末から第四紀初めの各種火山岩類で構成されている。玄界灘に面した北西海岸はリアス式海岸で、島嶼部は西部丘陵地熔岩台地の延長とみられる。多良火山地は、佐賀県最高峰の経ヶ岳・多良岳など第四紀初期に形成された安山岩質の成層火山と熔岩台地で構成されている。佐賀平野は新生代第四紀沖積世に、筑後川・嘉瀬川・六角川などによってつくられた複合三角州で、表層は沖積世の有明粘土層で下層は洪積世の堆積物が存在する。

佐賀県産の化石は新生代5000万年前以降にできた第三紀～第四紀の二枚貝・巻貝・オオムガイなどの軟体動物やサメの歯・ナウマンゾウ臼歯などの脊椎動物、メタセコイア・ハス・ヤナギ・珪化木などの植物の化石が産する。

動物では、シギ・チドリ・カモ類など多くの渡り鳥の飛来地・休息地として有明海は日本有数の地で、現在までに佐賀県から記録された野鳥は300種以上にのぼっている。県鳥カササギは、国の天然記念物として大切に保護されている。アリアケシラウオ・ヤマノカミ・ワラスボ・チクゴエビ・アリアケガニは有明海だけに棲む特産種であり、ムツゴロウは珍魚として有名であるが減少がはなはだしく県有明海水産試験場では人工交配の実験をてがけ養殖による

増殖をてがけている。また「生きた化石」と呼ばれるオオシャミセンガイ・ミドリシャミセンガイ、伊万里湾のカブトガニ、脊振山地、多良火山地のムカシトンボは地質時代の生き残り生物として有名である。

植物では、山岳地帯に常緑広葉樹林を主とした自然林も点在しているがほとんどは人工林である。代表的な自然林は、脊振山地のブナ林、多良火山地のモミ林、脊振山地・多良火山地・西部丘陵地のカシ林、玄界灘沿岸・島嶼部のタブ林などがある。佐賀県で発見された原産地植物としてはカネコシダ・クロカミラン・ハガクレカナワラビ・キュウシュウコゴメグサ・リュウゾウジャナギ・クセンブツツジなどがありミツガシワやエヒメアヤメは特筆できる。また、クスノキは佐賀を代表する樹木である。

- ① 佐賀県のおいたち
佐賀県地形模型、佐賀県の地質・地史
- ② 佐賀県の岩石
球状閃緑岩・花崗岩・石灰岩・火山弾 他
- ③ 佐賀県の化石
ヨコヤマオオムガイ・シキシマハス 他
- ④ 佐賀県の植物
クロカミラン・カネコシダ・アオホラゴケ 他
- ⑤ 佐賀県の蝶
ミカドアゲハ・スギタニルリシジミ 他
- ⑥ 佐賀県の野鳥
カササギ・キジ・ヤマドリ・フクロウ 他
- ⑦ カブトガニの生態
- ⑧ 模型類
 - 有明海干潟生態模型
 - エヒメアヤメ生態模型
 - 森林の生態模型
 - 森林の働きの模型
 - タイザノザウルス模型 他

II 原始・古代の郷土（2号展示室）

旧石器時代・縄文時代

近年我が国の旧石器文化探求の勢いは目ざましく、10万年以前の前期旧石器文化の様相もかなり鮮明になりつつある。本県の資料は後期から終末期のものに限られるが、多久市鬼の鼻山（安山岩）や伊万里市腰岳（黒曜岩）などの石器素材原産地を中心に特色ある石器文化が展開している。

縄文時代も基本的には採集経済の社会であったが、石器とともに土器が用いられるようになり、人々の食生活は一層安定した。

- ① 石器を使った人々—旧石器時代—
 - 石器に使用された原石
 - 旧石器時代末期の各種石器
- ② 土器を使うくらし—縄文時代—
 - 縄文時代早～前期の土器と石器
 - 縄文時代中期の土器と石器
 - 縄文時代後～晩期の土器と石器

弥生時代・古墳時代

弥生時代になると水稲耕作中心の生産経済社会となり、各集落の統合・離反の中から、やがて部族国家が形成されてゆく。本県は特に大陸文化を受容し、それを日本化していく弥生文化播種の地として重要な位置を占める。

古墳時代は前方後円墳に象徴される権力者の抬頭と統一国家形成が進化した政治的激動期であった。同時に須恵器生産や鉄製に代表されるような先進技術が多くの渡来人によってもたらされた時代でもあった。

- ① 水稲農耕社会の発展—弥生時代—
 - 土器の変遷
 - 大陸系磨製石器
 - 青銅製武器から鉄製武器へ
 - 弥生人の装身具
 - 青銅の鏡（舶載鏡と仿製鏡）
 - 弥生人のまつり（銅鐸・青銅製武器形祭器）
- ② 古墳が築かれた頃—古墳時代—
 - 古墳時代前期の土器—土師器—
 - 古墳時代後期の土器—須恵器—
 - 古墳時代の鏡
 - 古墳時代の武器
 - 古墳時代の馬具
 - 古墳時代の装身具
 - 円筒埴輪
- ◎ 特別展示「北茂安町検見谷遺跡出土銅矛」
 - 第1期 5月28日(土)～6月19日(日)
 - 第2期 8月30日(火)～9月11日(日)

III 古代・中世の郷土（2～3号展示室）

奈良時代に律令制が成立し、肥前には駅18所・烽20所が付設され、11郡・70郷・187（184?）里が存在した。奈良時代初頭の人口は肥前全体で約9万人、水田面積は約1万ヘクタール、現在の佐賀県地域には約7万人がおり、米のほか粟・麦・豆類などが栽培されていたと推定されている。また、松浦地方では、海女たちを中心とする海産業が行われていた。

しかし、平安時代には律令制が崩壊し、肥前の地でも、院御領の神崎御荘（神埼郡南部）や太宰府観世音寺領中津荘（杵島郡白石町）などの荘園が成立し、一方で在地領主層の成立もみせている。

鎌倉時代には、既に武士化していた在地領主層の高木宗家や南二郎季家などが現在の佐賀郡大和町春日や佐賀市城内付近などの地頭職に任命されている。

さて、元寇に際しては、松浦党や肥前の武将の活躍目ざましく、暴風雨の助けもあり、これを退けたが、佐志氏や山代氏の一族、竜造寺小三郎左衛門尉などが戦死し、異国警護番役や石築地役などの出費もかさみ、御家人は経済的にも圧迫されたが、当時幕府領となっていた神崎荘は四百余人に細かく分配されるなど、幕府は十分な恩賞は出せなかった。

こうした不満から鎌倉倒幕が起きた。これに即応して少武・大友・島津氏らが太宰府の鎮西探題を攻め、肥前の武将の多くもこれに従った。また、建武2年（1335）の足利氏の挙兵には、竜造寺家房・千葉胤貞が応じ、後に松浦党もこれに加わった。

これ以降の九州は、一時的には、尊氏配下の鎮西探題一色道猷や征西將軍懐良親王に平定されたが、九州探題波川・大内氏と小武氏の間を中心にした争いが繰り返され、こうした戦乱のなかで、竜造寺氏が大きく成長し、肥前の統一を進めていく。

1. 郷土の仏教美術

聖観音立像（複製：三田川町東妙寺蔵）・木造菩薩形立像（個人蔵）・木造菩薩形立像（個人蔵）・木造地藏菩薩坐像（大和町高城寺蔵）・絹本着色両界曼荼羅図（多久市妙覚寺蔵）・絹本着色不動明王像（個人蔵）・紙本墨書妙法蓮華経断巻（唐津市鏡神社蔵）・紺紙金字妙法蓮華経（個人蔵）・銅造菩薩形坐像（鹿島市普明寺蔵）・絹本着色阿弥陀八大菩薩像（武雄市広福護国禅寺蔵）・絹本着色釈迦三尊及び眷属像（武雄市広福護国禅寺蔵）・絹本墨画淡彩善財童子歴參

図（武雄市広福護国禅寺蔵）・絹本墨画淡彩楊柳観音像（武雄市広福護国禅寺蔵）・絹本着色楊柳観音像（唐津市鏡神社蔵）

IV 近世のあゆみ（2号展示室）

九州の戦国期に島津・大友氏と三分した肥前の雄竜造寺隆信が台頭のきっかけは「肥前の桶狭間合戦」といわれる今山の合戦である。隆信が敵将大友八郎を討取った成松信勝に与えた感謝状は第一級の史料であり、隆信の肖像は戦国武将の面影を伝えている。この竜造寺隆信が戦死して鍋島家への政権交代に大きな役割を果たした秀吉が築いた「肥前名護屋城図屏風」は名護屋城を考える上での貴重な史料である。現在の佐賀県内には、佐賀藩・唐津藩・対島藩の領地（のちには一部天領）に分けられた。その佐賀藩は外様大名として独特な藩治を行い、また、長崎警備を福岡藩と交代で命ぜられた。「はがくれ」を生んだ風土であるが、儒学・武芸を尊び、弘道館等の教育が行われ多くの人材を輩出した。幕府の昌平黉で教授となった古賀精里などの人材、またこれに教育された人々が幕末期の藩政の危機を救い、明治維新时期での飛躍の原動力となっている。医学や軍事力の増強など、蘭学・英学などの知識・技術の導入に積極的で、我が国最初の反射炉による鉄製大砲の鑄造、蒸気機関車雛型の製作、蒸気船の建造など技術水準を物語る展示品がある。なお、展示替の際に肥前忠吉系の作品を初代より9代まで展示した。通常の小テーマは次の通りである。

- ① 肥前の統一
- ② 肥前名護屋城の築城
- ③ 近世諸藩の成立
- ④ 藩政期の文教
- ⑤ 長崎警備
- ⑥ 幕末の対外情勢
- ⑦ 鍋島直正の登場
- ⑧ 長崎海軍伝習所
- ⑨ 幕末の科学技術
- ⑩ 維新期の群像

V 肥前の近世工芸（3号展示室）

肥前の近世工芸を代表する古唐津陶器にはじまり、

初期伊万里様式磁器、柿右衛門様式、古伊万里様式の色絵磁器・染錦磁器、鍋島藩窯磁器の精華を紹介する。

また染織では、木綿手織の鍋島緞通がある。様式化された図案と素朴な質感、植物染料の思いがけなく斬新な色使いが人目を引くことだろう。

第三期は、「江戸の雅び—ぬりものの美」を鹿島鍋島家寄贈の漆器類を中心に、最後の更紗職人江頭佐八の手で染められた明治時代の鍋島更紗2点（今年度寄託）と古伊万里の磁器、柿右衛門様式のカラーパネルを展示した。

第1期（5月28日～9月11日）

- ・二彩唐津櫛目文大鉢
- 二彩唐津松絵水甕
- 叩き褐袖三耳付葉茶壺
- 三島唐津象嵌花文鉢
- ・染付青磁菊花文碗
- 染付松竹梅文筒茶碗
- 染付松梅文瓶（寄託）
- 青磁菊花文瓶（寄託）
- 染付山鶴図皿
- 染付日輪山水図皿
- 染付波兎図皿（寄託）
- ・色絵菱更紗文皿
- 色絵花更紗文皿
- 染付青磁扇文皿
- 青磁耳付花器
- 色絵牡丹唐草文皿
- 色絵芥子文皿
- ・色絵花蝶八橋文壺
- 染錦双鶏図角皿
- 色絵桜樹文輪花鉢
- ・染付花鳥図手付水瓶（寄託）
- 染付芙蓉手花籠図皿
- 染錦梅花欧字文注器：O・A
- 染錦御所車風俗図髹皿
- 染錦美人楼閣図大皿
- 染付世界地図絵大皿
- ・鍋島緞通：蟹牡丹唐草文
- 蟹牡丹文
- 唐草花文
- 唐草花文（二疊物）

第2期（7月11日～9月11日）同上

第3期(12月1日～2月12日)

- ・漆器：檜垣地蘇鉄蒔絵御覧箱(寄託)
春草蒔絵煙草盆
花鳥図高蒔絵硯箱
蓬萊蒔絵香箱(寄託)
梨地秋草蒔絵手箱
楼閣蒔絵源氏箱(寄託)
翹葉紋散蒔絵箱・歌加留多
松竹蒔絵貝桶・貝覆(寄託)
呂色翹葉紋貝桶・貝覆
呂色翹葉紋散貝桶・貝覆
翹葉紋蒔絵貝桶・貝覆
- ・鍋島更紗：端裂集より(5点)
長着(寄託)
蒲団(寄託)

- ・染錦美人楼閣図大皿
染付芙蓉手花篋図皿
染付芙蓉手花篋図皿(寄託)
染付日本地図絵大皿
染付世界地図絵大皿
色絵龍唐草文腰板のパネル

*12月27日～2月12日 佐賀県重要文化財の磁器2点を特別展示。

- 柿右衛門様式 色絵花蝶図輪花形深鉢
鍋島藩窯様式 染付鍋島藩窯絵図大皿

VI 近世絵画(3号展示室)

雲谷派の祖雲谷等顔、京狩野の代表的な画家狩野山雪は肥前の出身である。彼らの肥前領内での活動は知られていないものの、桃山から江戸前期にかけて、肥前にゆかりのある比較的多くの画人の存在が確認できる。その後、肥前のうち長崎においては、中国やオランダとの交渉により、黄檗派・南蘋派・南画派・洋風画派などが生まれ、日本絵画史上大きな影響を及ぼしたといえる。一方、佐賀藩・唐津藩における画壇は、必ずしも活発ではなく、主導的立場にあるべき御用絵師にしても、その系譜は断続的であった。しかし、幕末頃には、佐賀藩では大和絵・南画・写生画・浮世絵なども制作されるようになり、また西洋文化の積極的な移入により西洋絵画に対する理解も進み、日本での最初期の本格的洋画家百武兼行が登場する土壌が築かれた。

第I期(5月28日～7月17日)

- 狩野高信 四季孔雀図屏風
天龍道人 粟穂に叭々鳥図
広渡心海(良寛) 鳳凰図
成富椿屋 花鳥図
長谷川雪塘 花鳥図
岸 天岳 松に鶴図
高柳快堂 海辺群鶴図屏風
鍋島綱茂 三十六歌仙画帖
古川松根 三十六歌仙図下絵

第II期(7月19日～9月11日)

- 甬雪等禅 運に鷺図
伝雲谷等顔 山水図屏風
成富独幽 臨濟図
小原友閑斎 黄石公張良図
広渡雪山 山水図
広渡雪山 西湖図屏風

第III期(12月～1日～2月12日)

- 住吉桂舟弘延 源氏物語「若菜」・竹図屏風
歌川豊国 浅草年の市・正月図
草場佩川 旭に梅図
古川松根 四季風物図
成富椿屋 仁比山不動院之図

VII 近代の書(3号展示室)

近代は、書においても芸術性の追求が盛んに行われた時期である。本県関係では、明治の元勳副島種臣(蒼海)や、当時「銀座の書聖」と呼ばれた中林梧竹、唐津藩医の子として江戸で生まれた西川春洞が能書家として有名である。

第I期(5月28日～7月17日)

- 中林梧竹 二行書貼合屏風
副島種臣 七言絶句「客中示人」
副島種臣 五行書
副島種臣 二行書

第II期(7月19日～9月11日)

- 中林梧竹 七言詩屏風
中林梧竹 周秦古器銘評語屏風
中林梧竹 十七帖臨書屏風(十七帖外)
中林梧竹 十七帖臨書屏風(天鳳帖外)
中林梧竹 五言絶句
中林梧竹 虹図屏風

中林梧竹 「萬年和平」

中林梧竹碑文拓本（多久茂族碑銘、谷口藍田碑銘、久本家墓地門柱銘、江口保定碑銘、江越礼太碑銘、岡山神社鳥居銘、勝妙寺山門銘、副島種臣墓碑銘、中林経緯夫妻墓碑銘、梧竹退筆塚台石銘）

第Ⅲ期（12月1日～2月12日）

中林梧竹 十七帖臨書屏風（児女帖外）

副島種臣 李白詩「登金陵鳳凰台」屏風

西川春洞 壽詩屏風

○肥前国産物図考捕鯨の図写真パネル

○勢子船、双海船模型

⑤ 相知町横枕の大甕づくり（韓国の製陶用具）

⑥ 肥前配置売薬関係資料

⑦ 手すき和紙製作用具

2. 昭和63年度 博物館新収蔵品展

会 期 平成1年3月25日～4月2日

会 場 3号展示室

Ⅷ 郷土の民俗（大展示室）

郷土の民俗では、歴史を民俗学的視野から概観できるように試みている。

とくに、国の重要有形民俗文化財に指定されている有明海漁撈具は内容・量ともに充実しており幕末から明治初頭にかけての作と思われる「有明海漁撈実況図」（松田房晃・全23図）と共に、有明海の漁撈習俗を十分に知ることができる。また有明海関係の資料として昭和42年7月1日の狩猟法改正の時期まで使用されていた鴨銃とその弾丸製作工程は、当時の有明海における狩猟の状況を知ることが可能と言えよう。

農業関係の資料としては、明治・大正年間の佐賀のクレーク（堀）農業を特徴づける各種農具があり、佐賀農業の発展を願う農民の強い意志がうかがわれ、様々な工夫がなされていることも知ることができる。

その他、鳥栖市田代を中心とした製薬・売薬関係資料、東松浦郡相知町横枕の大甕製作用具、小川島での捕鯨を中心とした玄海の漁撈具等が、佐賀の民俗を特徴づけている。

① 佐賀の住まい

○民家模型（クド造り・ジョウゴ造り）

○収納家具 ○あかり

② 佐賀農業の歩み

○耕作用具 ○泥土揚げ用具 ○管理用具

○収穫用具 ○脱穀調整用具 ○糞加工用具

③ 有明海の漁業

○干潟漁業と用具 ○貝養殖と採捕用具

○鴨銃 ○船で使う生活用具

④ 玄海の捕鯨

○明治以降の捕鯨用具

自 然

○佐賀県産動植物化石

アカメガシワ、ヤナギ、メタセコイア、ヒシの実、マツラワスレガイ、カラツチョウチンガイ、キララガイ、オオムガイ、アンモナイト、コケムシ、三葉虫、フナクイムシ、カニ等48点

○佐賀県の岩石

コードランド岩、珪線石含有黒雲母流紋岩、球状ハンレイ岩、正長石斑岩、スカルン等10点

○日本産蝶類標本

アイノミドリシジミ、フジミドリシジミ、ウラキンシジミ、ウスバシロチョウ等186頭

○佐賀県産蛾類標本

ヤママユ、オオミズアオ、エビガラスズメ、ウスベリケンモン、エグリトガリシャク等253頭

○日本産クワガタムシ標本

ツシマヒラタクワガタ、キンオニクワガタ、ミナミツヤハダクワガタ、オオクワガタ等46頭

○日本産カミキリムシ標本

ハンノアオカミキリ、ペーツヒラタカミキリ、トゲムネミヤマカミキリ等168頭

○佐賀県産トンボ類標本

ムカシトンボ、サラサヤンマ、ミヤマサナエ、ハラビロトンボ、チョウトンボ等136頭

考 古

1. 有柄銅剣（唐津市宇木鶴崎遺跡出土）

弥生時代 1口

2. 細形銅剣（唐津市宇木汲田遺跡出土）〈複製〉

弥生時代 1口

3. 細形銅矛（唐津市宇木汲田遺跡出土）〈複製〉

弥生時代 1口

4. 銅舌（唐津市宇木汲田遺跡出土）〈複製〉

弥生時代 1個

常設展

歴史

1. 小早川隆景書状（鶴田越前守宛）
桃山時代 1紙
2. 「泰窩」説 林鳳岡筆 延宝5年(1677) 1巻
3. 筑紫等関係資料 江戸時代 1式

美術

1. 山水図 広渡雪山筆 江戸時代 1幅
2. 若松に鶴図屏風 狩野主信筆
江戸時代 1双(6曲)
3. 花鳥図屏風(貼合) 江越繡浦筆
江戸時代 1隻(6曲)
4. 山水図 谷文晁筆 文政3年(1820) 12幅
5. 竹図屏風 草場佩川筆
安政4年(1857) 1双(6曲)
6. 書画屏風(貼合) 草場佩川筆
江戸時代 1隻(6曲)
7. 朱子像 草場佩川筆 慶応3年(1867) 1幅
8. 雪中鷺図 狩野匡信筆 江戸時代 1幅
9. 山水図 木下逸雲筆 文久元年(1861) 1幅
10. 菊図 草場船山筆 明治時代 1幅
11. 刀・銘「肥前國佐賀住吉永」
江戸時代 1口
12. 染錦藝仙人図角鉢(古伊万里様式)
江戸時代 1口
13. 佐賀ガラス酒瓶 明治時代 1口
14. 佐賀ガラス脚付容器 明治時代 1口
15. 佐賀ガラス水注 明治時代 1口
16. 佐賀ガラス酒瓶・坏 明治時代 1組
17. 鄭成功詩額 副島種臣筆
明治18年(1885) 1面
18. 五言絶句三行書二首屏風(貼合) 中林梧竹筆
明治時代 1隻(2曲)
19. 書額「鶴鹿山」 中林梧竹筆 明治時代 1面

3. 昭和63年度 特別企画

神々のかたち—仮面と神像—展

- 主催 佐賀県立博物館 朝日新聞社
協力 国立民族学博物館 千里文化財団
会期 平成元年2月21日(火)～3月21日(火)
会場 佐賀県立博物館3号展示室
観覧料 大人 500円(400円)
大・高生 250円(150円)
中・小生 150円(100円)
()内は20名以上の団体料金
図録 A 4版変形 アート紙94頁(カラー36頁)
B 5版 アート紙27頁(全モノクロ)
(2種類の図録を刊行した。前者はオセアニア・アジア・アメリカ・アフリカの仮面を掲載し、後者は佐賀の仮面を掲載した。)
入館者数 5081名(開催日数26日)

展示概要

何が世界各地の民族文化を特徴付けているのかと考えたとき、祭祀や芸能、宗教儀礼の分野が非常に重要な要素として浮かび上がってきます。これを構成するのがまぎれもなく仮面と神像であり、いわば各民族文化の華とも言えるでしょう。またそこに示された色や形はあたかも表現の自由を謳歌しているようであり、ピカソやモジリアーニが影響を受けてきたように現代美術の創造力の源泉となってきたこともたいへん興味深いところです。

今回の企画は、民族学的な見地を生かしながら、仮面と神像のすぐれた造形美に焦点をあて世界各地の文化の特徴を広く紹介したもので、大阪、千里の国立民族学博物館が世界各地で収集した仮面や神像を展示したほか、佐賀県内に保存、継承される各種仮面の展示、解説をしました。

展示構成

- オセアニアの仮面と神像
- アジアの仮面と神像
- アメリカの仮面と神像
- アフリカの仮面と神像
- 佐賀の仮面

記念講演会(2回)

- 演題 佐賀の仮面
講師 米倉利昭氏(佐賀大学教授)

日時 平成元年1月28日(土) 午後2時～4時
会場 佐賀県立博物館 博物館教室

演題 仮面と神像—ブータンの仮面舞踏劇—
講師 栗田靖之氏
(国立民族学博物館第2研究部助教授)

日時 平成元年2月25日(土) 午後2時～4時
会場 佐賀県立博物館 博物館教室



ポスター



図録

出品目録

(オセアニア・アジア・アメリカ・アフリカ)

No.	作品名	使用地
●オセアニア		
1	仮面	パプア・ニューギニア
2	仮面	パプア・ニューギニア
3	仮面	パプア・ニューギニア
4	鉤(かぎ)	パプア・ニューギニア
5	鉤(かぎ)	パプア・ニューギニア
6	鉤(かぎ)	パプア・ニューギニア
7	楯(たて)	パプア・ニューギニア
8	楯(たて)	パプア・ニューギニア
9	食物貯蔵用土器	パプア・ニューギニア
10	食物貯蔵用土器	パプア・ニューギニア
11	神像	パプア・ニューギニア
12	神像	パプア・ニューギニア
13	神像	パプア・ニューギニア
14	神像	パプア・ニューギニア
15	神像	パプア・ニューギニア
16	神像付き椅子(いす)	パプア・ニューギニア
17	仮面	ビスマルク諸島
18	仮面	ビスマルク諸島
19	權(かい)	ビスマルク諸島
20	權(かい)	ビスマルク諸島
21	神像	ビスマルク諸島
22	神像	ビスマルク諸島
23	神像	ビスマルク諸島
24	神像	ビスマルク諸島
25	神像	ビスマルク諸島
26	神像	ビスマルク諸島
27	神像	ビスマルク諸島
28	神像	ビスマルク諸島
29	神像	ビスマルク諸島
30	神像	ビスマルク諸島
31	神像	ビスマルク諸島
32	船首飾り	ソロモン諸島
33	船首飾り	ソロモン諸島
34	權(かい)	ソロモン諸島
35	權(かい)	ソロモン諸島
36	神像	ニューヘブリデス諸島
37	仮面	ニューカレドニア
38	神像	オーストラリア
39	神像	オーストラリア

40	神像	オーストラリア	82	装飾用仮面	コートジボアール
	●アフリカ		83	仮面	コートジボアール
41	仮面	マリ	84	仮面	コートジボアール
42	仮面	マリ	85	仮面	コートジボアール
43	仮面	マリ	86	仮面	コートジボアール
44	神像	マリ	87	仮面	コートジボアール
45	神像	マリ	88	仮面	コートジボアール
46	神像	マリ	89	仮面	コートジボアール
47	神像	マリ	90	仮面	コートジボアール
48	神像	マリ	91	仮面	コートジボアール
49	神像	マリ	92	仮面	コートジボアール
50	神像	セネガル	93	仮面	コートジボアール
51	仮面	ブルキナファソ	94	仮面	コートジボアール
52	仮面	ブルキナファソ	95	仮面	コートジボアール
53	仮面	ブルキナファソ	96	仮面	コートジボアール
54	仮面	ブルキナファソ	97	仮面	コートジボアール
55	仮面	ブルキナファソ	98	仮面	コートジボアール
56	仮面	ブルキナファソ	99	仮面	コートジボアール
57	仮面	ブルキナファソ	100	仮面	コートジボアール
58	仮面	ブルキナファソ	101	仮面	コートジボアール
59	仮面	ブルキナファソ	102	神像	コートジボアール
60	仮面	ブルキナファソ	103	神像	コートジボアール
61	仮面	ブルキナファソ	104	神像	コートジボアール
62	仮面	ブルキナファソ	105	神像	コートジボアール
63	仮面	ブルキナファソ	106	神像	コートジボアール
64	神像	ブルキナファソ	107	神像	コートジボアール
65	神像	ブルキナファソ	108	神像	コートジボアール
66	神像	ブルキナファソ	109	神像	コートジボアール
67	神像	ブルキナファソ	110	神像	コートジボアール
68	仮面	ナイジェリア	111	装飾用仮面	リベリア
69	仮面	ナイジェリア	112	装飾用仮面	リベリア
70	仮面	ナイジェリア	113	装飾用仮面	リベリア
71	仮面	ナイジェリア	114	装飾用仮面	リベリア
72	神像	ナイジェリア	115	仮面	リベリア
73	神像	ナイジェリア	116	仮面	リベリア
74	儀礼用杖飾り	ナイジェリア	117	仮面	リベリア
75	神像	ガーナ	118	仮面	リベリア
76	仮面	コートジボアール	119	仮面	リベリア
77	仮面	コートジボアール	120	仮面	リベリア
78	装飾用仮面	コートジボアール	121	神像	リベリア
79	装飾用仮面	コートジボアール	122	神像	リベリア
80	装飾用仮面	コートジボアール	123	神像	リベリア
81	装飾用仮面	コートジボアール	124	神像	リベリア

125 仮面	シェラレオネ
126 仮面	シェラレオネ
127 仮面	シェラレオネ
128 仮面	シェラレオネ
129 仮面	ギニア
130 仮面	ギニア
131 神像	ギニア
132 神像	ギニア
133 仮面	カメルーン
134 仮面	カメルーン
135 仮面	カメルーン
136 仮面	カメルーン
137 仮面	カメルーン
138 仮面	カメルーン
139 仮面	カメルーン
140 仮面	カメルーン
141 仮面	カメルーン
142 仮面	ザイール
143 仮面	ザイール
144 仮面	ザイール
145 仮面	ザイール
146 仮面	ザイール
147 神像	ザイール
148 神像	ザイール
149 神像	ザイール
150 神像	ザイール
151 神像	ザイール
152 仮面	ガボン
153 仮面	コンゴ
154 仮面	コンゴ
●アジア	
155 仮面	ネパール
156 仮面	ネパール
157 仮面	ネパール
158 仮面	ネパール
159 仮面	ネパール
160 仮面	ネパール
161 仮面	ネパール
162 仮面	ネパール
163 仮面	ブータン及び中国
164 仮面	ブータン及び中国
165 仮面 (女性)	インド
166 仮面	インド

167 仮面 (ライオン)	インド
168 仮面	スリランカ
169 仮面	スリランカ
170 仮面	スリランカ
171 仮面	スリランカ
172 仮面	スリランカ
173 仮面	スリランカ
174 仮面 (王)	スリランカ
175 仮面	スリランカ
176 仮面	マレーシア
177 仮面	マレーシア
178 仮面	マレーシア
179 仮面	マレーシア
180 神像	マレーシア
181 神像	マレーシア
182 神像 (カニの精霊)	マレーシア
183 神像 (台所の精霊)	マレーシア
184 仮面	インドネシア
●アメリカ	
185 仮面	カナダ
186 仮面	カナダ
187 仮面 (オオガラス)	カナダ
188 仮面	カナダ
189 仮面	アメリカ合衆国
190 仮面	アメリカ合衆国
191 仮面 (コヨーテ)	メキシコ
192 仮面 (アルマジロ)	メキシコ
193 仮面 (サソリ)	メキシコ
194 仮面 (カエル)	メキシコ
195 仮面 (イナゴ)	メキシコ
196 仮面 (クモ)	メキシコ
197 仮面 (ジャガー)	コロンビア
198 仮面 (ジャガー)	コロンビア
199 仮面 (太陽)	コロンビア
200 仮面 (太陽)	コロンビア

特別出品目録

No.	作品名	使用地
●オセアニア		
特別出品 2	儀礼用仮面	バブア・ニューギニア
// 4	仮面	バブア・ニューギニア
// 6	神像	ニューヘブリデス諸島

●アジア

特別出品11	神像(ライオン)	インド
//	12 ヒンドゥー神像	インド
//	13 ヒンドゥー神像	インド
//	14 ヒンドゥー神像	インド
//	15 ヒンドゥー神像	インド

●アメリカ

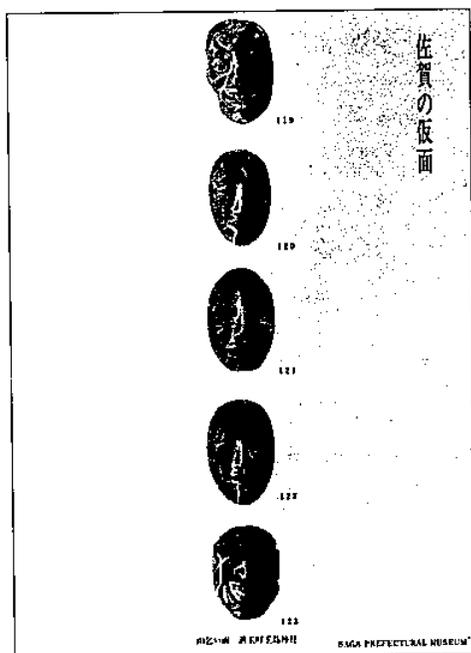
特別出品21	トーテムポール	アメリカ合衆国
//	22 トーテムポール	アメリカ合衆国

出品目録 (佐賀県内)

№	資料名	材質	使用地 (所在)
*面浮立			
1	鬼面(古面)	木製	鹿島市竜宿浦
2	鬼面(古面)	木製	鹿島市竜宿浦
3	鬼面		
4	鬼面(安成年間)	木製	鹿島市音成
5	鬼面	木製	鹿島市野島
6	鬼面	木製	太良町古賀
7	鬼面	木製	太良町古賀
8	鬼面	木製	太良町古賀
9	鬼面	木製	武雄市武雄町永松
10	ササラ面	木製	武雄市武雄町永松
11	ササラ面	木製	武雄市武雄町永松
12	ササラ面	木製	芦刈町下古賀
13	鬼面	木製	芦刈町下古賀
14	鬼面	木製	芦刈町下古賀
*舞浮立 (演目:八兵衛浮立)			
15	八兵衛	紙製	山内町鳥海
16	七兵衛	紙製	山内町鳥海
17	六兵衛	紙製	山内町鳥海
18	嫁さん	紙製	山内町鳥海
19	婿さん	紙製	山内町鳥海
20	布袋	紙製	山内町鳥海
21	婆さん	紙製	山内町鳥海
22	爺さん	紙製	山内町鳥海
23	坊さん	紙製	山内町鳥海
*天衝舞浮立			
43	鬼面	木製	浜玉町鳥巢
44	鬼面	木製	七山村大屋敷
45	鬼面	木製	厳木町星領
*剣突き舞			
46	剣突き面	木製	鹿島市

47	剣突き面	木製	鹿島市(琴路神社)
*野狐踊り			
48	白狐面(大人用)	紙製	太良大浦平浜
49	白狐面(子供用)	紙製	太良大浦平浜
*獅子浮立			
50	獅子面	紙製	鹿島市嘉瀬浦
51	獅子面	紙製	鹿島市嘉瀬浦
52	獅子面	紙製	太良町古賀
53	獅子面	紙製	太良町古賀
54	獅子面	紙製	太良町糸岐
55	獅子面	紙製	太良町糸岐
*獅子舞			
(伎楽系)			
56	獅子頭(雌)	木製	基山町一井木
57	獅子頭(雄)	木製	基山町向平原
58	獅子頭(雌)	木製	鳥栖市牛原町
59	獅子頭(雄)	木製	鳥栖市牛原町
(大神楽系)			
60	獅子頭(雄)	紙製	神埼町尾崎
61	めずり	木製	神埼町尾崎
(散楽系)			
62	獅子頭(雌)	紙製	諸富町三重
63	獅子頭(雄)	紙製	諸富町三重
64	獅子頭(雌)	木製	佐賀市蓮池町(魚町)
65	獅子頭(雄)	木製	佐賀市蓮池町(魚町)
66	獅子頭(雌)	紙製	有明町古賀
67	獅子頭(雄)	紙製	有明町古賀
68	獅子頭(雌)	紙製	鹿島市(琴路神社)
69	獅子頭(雄)	紙製	鹿島市(琴路神社)
70㊦	獅子頭(雌)享和2年銘	木製	唐津市神田
71㊦	獅子頭(雄)享和2年銘	木製	唐津市神田
*天狗さん祭			
73	天狗面	木製	上峰村下津毛
74	天狗面(明和3年銘)	木製	佐賀市巨勢町東分下
75	天狗面(明和3年銘)	木製	佐賀市巨勢町東分下
76	天狗面(天保3年銘)	木製	千代田町乙南里
77	天狗面(天保3年銘)	木製	千代田町乙南里
78	天狗面(天保12年銘)	木製	千代田町嘉納
79	天狗面(天保12年銘)	木製	千代田町嘉納
*竹崎観世詩修正会鬼祭			
80	翁面	木製	太良町竹崎
81	翁面	木製	太良町竹崎
82	男面	木製	太良町竹崎

83	女面	木製	太良町竹崎
*能・狂言			
86	景清	木製	神埼町(櫛田神社)
87	小面	木製	神埼町(櫛田神社)
88	邯鄲男	木製	神埼町(櫛田神社)
89	山姥	木製	神埼町(櫛田神社)
90	般若	木製	神埼町(櫛田神社)
91	猿	木製	神埼町(櫛田神社)
92	(狂言面)	木製	千代田町高志
93	(狂言面)	木製	千代田町高志
94	(狂言面)	木製	千代田町高志
95	(狂言面)	木製	千代田町高志
96	武悪	木製	千代田町高志
*神事(信仰)			
(御神幸)			
97	鼻高面(正安2年銘)	木製	呼子加部島(田島神社)
99	猿田彦	木製	鹿島市浜町(松岡神社)
100	猿田彦	木製	鹿島市古枝(祐徳稲荷神社)
103	天狗面	木製	佐賀市蓮池町(八坂神社)
104	天狗面	木製	佐賀市蓮池町(八坂神社)
106	火王	木製	佐賀市(与賀神社)
107	水王	木製	佐賀市(与賀神社)
109	火王	木製	神埼町(櫛田宮)
110	水王	木製	神埼町(櫛田宮)
(雨乞い)			
117	雨乞い面	木製	東脊振村(海童神社)
118	雨乞い面	木製	東脊振村(海童神社)
127	木造面	木製	鹿島市(松岡神社)



図録



記念講演会「仮面と神像—ブーテンの仮面舞臺劇—」



展覽会場

4. 企画展ならびにその他の展覧会 昭和63年度

展覧会名	会期	主催
第19回 日 展	4/28～5/22	社団法人日展、佐賀県、佐賀市、佐賀県教育委員会、佐賀市教育委員会、佐賀県立博物館美術館、サガテレビ、テレビ西日本、西日本新聞社
第38回 佐賀県児童生徒理科 作 品 展	9/17～9/23	佐賀県理科教育振興会 佐賀県立博物館
第8回 よみがえれ佐賀展	10/1～10/10	佐賀市、佐賀市教育委員会 佐賀青年会議所、佐賀新聞社 佐賀県機械金属工業会連合会
農協共済小中学生 第14回 交通安全ポスター展 第24回 書 道 展	10/18～10/23	佐賀県共済農業協同組合連合会 佐賀県立博物館
第12回 佐賀県高等学校芸術祭 美 術 ・ 書 道 展	10/30～11/6	佐賀県教育委員会、佐賀県高等学校教育研究会芸術部会、佐賀県高等学校美術連盟、佐賀県高等学校書道研究会
第38回 佐賀県美術展覧会	11/19～11/27	佐賀県、佐賀県教育委員会 佐賀県立博物館、佐賀県立美術館
神々のかたち 仮面と神像展	2/21～3/21	佐賀県立博物館 朝日新聞社

5. 博物館観覧状況調べ 昭和63年度

常 設 展	個 人			団 体		
	大人	大・高	中・小	大人	大・高	中・小
佐賀県の歴史と文化	274	13	54	27	36	0
〃	3,585	262	761	557	77	43
〃	3,422	272	580	234	0	21
小 計 (1)	7,281	547	1,395	818	113	64

企 画 展	個 人			団 体		
	大人	大・高	中・小	大人	大・高	中・小
神々のかたち一仮面と神像一展	2,754	274	351	99	136	562

その他の展覧会	個 人			団 体		
	大人	大・高	中・小	大人	大・高	中・小
第38回佐賀県児童生徒理科作品展	704	403	1,626	0		1,008
第8回よみがえれ佐賀展	2,062	48	527	35	92	1,745
交通安全ポスター作品展	777	22	414	21		420
小 計 (2)	3,543	473	2,567	56	92	3,173
合 計 (1)+(2)	10,824	1,020	3,962	874	205	3,237

展 示 概 要	会 場
日本画、洋画、彫刻、工芸美術、書約450点を展示。	博物館2・3号 (美術館1・2・3・4号)
小・中・高等学校の生徒による理科作品約150点を展示。	博物館3号
幕末・近代の佐賀を近代科学・産業・文化面から紹介。	博物館3号
県内小・中学生の交通安全ポスター。書道入選作品400点。	博物館3号
本県高等学校美術教育の振興と高校生の芸術文化活動の交流およびその向上をはかる。 絵画・書等約500点を展示。	博物館2・3号 (美術館2・3・4号)
日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真、デザインの各部門で県内から一般公募、入選 作約450点を審査員・物故作家作品とあわせて展示。	博物館2・3号 (美術館1・2・3・4号)
オセアニア、アフリカ、アジア、アメリカの各地域の仮面と神像210点、佐賀の仮面80 点を展示。	博物館3号

観 覧 料 免 除			招待者	優待者	合計	開館日数	一日平均	期 間
大人	大・高	中・小						
1	0	20	0	0	425	18	23.6	4/1～4/21
144	223	2,348	0	21	8,021	128	62.6	5/28～10/23
117	284	447	15	38	5,430	97	55.9	12/1～3/31
262	507	2,815	15	59	13,876	243	57.1	

観 覧 料 免 除			招待者	優待者	合計	開館日数	一日平均	期 間
大人	大・高	中・小						
			772	133	5,081	26	195.4	2/21～3/21

観 覧 料 免 除			招待者	優待者	合計	開館日数	一日平均	期 間
大人	大・高	中・小						
					3,741	6	623	9/17～9/23
					4,509	9	501	10/1～10/10
					1,654	6	275	10/18～10/23
0	0	0	0	0	9,904	21	471	
262	507	2,815	15	59	23,780	264	90	

6. 普及活動

(1) 資料の刊行

博物館報

年4回、各号8ページで800部発行。

全国の主要博物館、美術館ならびに研究機関、県内の教育機関、社会教育団体に配布。企画展、新収蔵品展の案内から資料紹介までの内容は下記のとおりです。

№81 昭和63年6月15日

* 佐賀県重要文化財四段積上式経筒(脊振村出土)

* 資料紹介「佐賀城内絵図」

* 九博協講演要旨「博物館に期待する」

* 美術館アンケートから

* 行事のお知らせ

№82 昭和63年9月1日

* 四季耕作図屏風

* 「田園風俗画展」案内

* 研究ノート「黒田・久米にみる理想画の行方」

* 資料調査メモ「中野家由緒書差出控」考

* 行事のお知らせ・人事異動

№83 平成元年1月10日

* 浮立面(古面)

* 「神々のかたち 仮面と神像展」案内

* 資料紹介「佐賀県の鳥類」

* 資料紹介「東脊振村タケ里遺跡出土の古式土師器(1)」

* 行事のお知らせ

№84 平成元年3月31日

* 型絵染壁掛 面浮立図

* 資料紹介「型絵染と鈴木照次」

* 資料紹介「木造薬師如来像」

* 佐賀の仮面—講演会より—

年報

昭和62年度佐賀県立博物館・佐賀県立美術館年度№18を刊行。昭和62年度の管理概要、事業運営の概況、資料概要、茶室「清恵庵」の管理運営等を掲載する。

B5版・アート紙・64ページ・800冊を刊行。

調査研究書

昭和63年度佐賀県立博物館・佐賀県立美術館調査研究書第14集を刊行、各方面に配布した。内容は下記のとおりである。

B5版・アート紙・60ページ・1000部印刷

* 絵画・仏教美術・考古学の各分野で構成。

図録

佐賀県立博物館の特別企画展(年1回)に伴い展示図録を刊行した。

* 「神々のかたち 仮面と神像展図録」

* 「佐賀の仮面図録」

内容については企画展の項を参照のこと。

(2) 研究講座

昭和63年度佐賀県立博物館特別企画「神々のかたち 仮面と神像展」の開催に先駆け下記の内容で実施した。

演題 「佐賀の仮面」

講師 米倉利昭氏(佐賀大学教授)

日時 平成元年1月28日(出) 午後2時~4時

会場 佐賀県立博物館 博物館教室

(3) 博物館学実習(付表参照)

学芸員養成講座を持つ大学からの要請により、昭和63年度は7月13日(水)から7月22日(金)までの8日間、下記の10名で実施した。

実習生	所属大学	
菊地 千枝	西南学院大学	文学部
尾崎 芳俊	〃	商学部
内芝 誠巳	福岡大学	人文学部
小池真理子	〃	〃
財部 知子	〃	〃
牧迫 栄作	〃	〃
渡辺 道子	〃	〃
古賀 貴子	昭和女子大学	文学部
志岐 早苗	梅光女学院大学	日本文学部
西山 さち	京都芸術短期大学	



No.81



No.82



No.83



No.84

昭和63年度博物館学実習

日 程	課 目	内 容
7月13日	開 講 式 業 務 説 明 等	館長挨拶 館内施設見学・施設の管理・運営・学芸活動の実際
14日	自然科学 民 俗 学	資料の整理・植物標本の作成 資料の手入れ
15日	保存科学 中世美術	資料の保存について 資料の取扱いと調査法について
16日		個人またはグループによる 館外施設見学
18日	近 世 史	佐賀藩の成立 企画普及と広報活動
19日	考 古 学 工 芸	拓本と土器の復元 陶磁器の取扱い
20日	近世美術 歴史資料 調 査	掛軸等の取扱いについて 古文書の解説と調書の作成 について
21日	近・現代美術 刀剣・甲冑	絵画の取扱いと調書の作成 刀剣の取扱いについて
22日	閉 講 式	資料の収集・整理・保存 座談会—実習を終えて— 館長挨拶・諸手続きなど

(4) 館外普及活動

- 昭和63年 4月27日 昭和63年度第1回文化財保護審議会講和講師
「石造物の調査・研究について」学芸員 大隈博文
(久保田町公民館)
- 6月29日 「献血に関するポスター図案」審査会審査員
学芸員 山崎和文
(佐賀県赤十字血液センター会議室)
- 7月2日 佐賀県理科教育振興会総会並びに研修会役員
資料係長 田中 裕
- 9月8日 昭和63年度佐賀県立美術館特別企画「田園風俗画展」の普及(～9月13日)県内市町村
教育委員会・資料館・報道機関・など(福岡県、長崎県を含む)
- 9月14日 昭和63年度統計グラフ佐賀県コンクール審査会審査員
学芸員 山崎和文
- 平成元年 1月24日 「ル・アープル美術館展」研修会講師
学芸員 松本誠一
(東急イン)
- 1月30日 昭和63年度佐賀県立博物館特別企画「神々のかたち 仮面と神像展」の普及(～2月10日)
普及先は前記「田園風俗画展」に同じ。

7. 資料調査

昭和63年4月6日	高城寺陀羅尼塔（通称）の調査（大和町）	学芸課長 学芸員 学芸員	小宮睦之 大隈博文 大隈博文
4月19日	山野田薬師堂の木造薬師如来座像の調査 （長崎県北松浦郡江迎町）		
4月21日	下中杖観音堂の木造十一面観音立像の調査 下豆田公民館の仏像群の調査（三田川町）	学芸員	大隈博文
4月27日	湯野田大師堂の板碑の調査（嬉野町）	副館長 学芸員	尾形善郎 大隈博文
5月18日	出土木器保存処理の実態調査 （宇佐風土記の丘歴史民俗資料館・福岡市埋蔵文化財センター）	専門員 学芸員	木下巧 蒲原宏行
5月31日	更紗に関する調査（福岡県）	学芸員	宮原香苗
6月8日	正司家所蔵資料調査（古賀家資料など） （有田町）	学芸課長 学芸員	小宮睦之 福井尚寿
7月8日	佐賀県立博物館特別企画「神々のかたち 仮面と神像展」 に伴う調査 （祐徳博物館・梶原家・鹿島市）	学芸員	山崎和文
7月11日	上記に同じ （飯田観音、藤井家、河兒家・唐津市）	学芸員	山崎和文
8月10日	ヨシ群落と塩生植物の調査—六角川・嘉瀬川— （江北町・白石町・芦刈町・福富町・久保田町）	資料係長	田中 裕
10月4日	鏡神社宝物の調査（唐津市） 筑紫琴に関する調査（永田家）	学芸課長 学芸員	小宮睦之 大隈博文
10月12日	修学院所在の木造毘沙門天立像、石造五輪塔、石造三重塔、 木造如来形座像の調査（東脊振村）	学芸員	大隈博文
10月19日	野上住吉神社、中畑観音堂、返答岳頂上、牟田墓地の菩薩 像・石造物等について調査（太良町）	学芸員	大隈博文
10月25日	「神々のかたち 仮面と神像展」に伴う調査 （有明町・鹿島市・太良町）	学芸員 学芸員	蒲原宏行 山崎和文
10月26日	上記に同じ （武雄市・山内町）	学芸員	蒲原宏行
10月27日	上記に同じ （芦刈町・伊万里市）	学芸員	山崎和文
10月28日	上記に同じ （七山村・浜玉町・唐津市）	学芸員 学芸員	蒲原宏行 山崎和文
10月28日	奈良文化財技術協会において仏像5基調査	学芸員	大隈博文
11月8日	寺社調査（東光寺・有洞社・普恩寺）玄海町	学芸員	大隈博文
11月12日	昭和63年度庶民時代硏究会総会出席 （北九州市）	学芸員	宮原香苗
11月19日	「神々のかたち 仮面と神像展」に伴う調査	学芸員	山崎和文
11月22日	「神々のかたち 仮面と神像展」に伴う調査	学芸員 学芸員	蒲原宏行 山崎和文
12月12日	西尾長谷山観音堂の文化財所在調査（北茂安町）	学芸員	大隈博文
12月14日	桶職人調査（鍋島町）	学芸員	山崎和文
平成元年1月6日	第25回埋蔵文化財研究会（愛知県豊中市）	学芸員	蒲原宏行
1月19日	旧公文家資料調査（佐賀市）	学芸課長	小宮睦之
1月27日	旧公文家資料調査（佐賀市）	学芸員	福井尚寿
1月31日	平成元年度佐賀県立博物館特別企画 「タイムトラベル1990」に伴う調査 （多久市歴史民俗資料館）	学芸員	福井尚寿 蒲原宏行
3月10日	旧公文家資料調査（佐賀市）	学芸課長 学芸員	小宮睦之 福井尚寿
3月16日	旧公文家資料調査（佐賀市）	副館長	尾形善郎
3月23日	平成元年度佐賀県立美術館特別企画 「鈴木照次—染色の旅—展」に伴う調査	学芸員	福井尚寿 宮原香苗

資料の概要 — 昭和63年度・博物館 —

1. 購入資料

(1) 自然科学資料

資料名	数量	備考
化石（イノセラムス他） イノセラムス、セリシウム、アテロトリゴニアホツ カイドーアナ、アンモナイト、クラドフレビスハ イブルネンシス、クラドフレビスラシホルスキー、 ポトザミーテスランセオラータス	16個	
化石（三葉虫他） 三葉虫、カラツチョウチンガイ、ナガオミノガイ、 キララガイ、ウニの仲間、コケムシの仲間、カキ 化石床、カキ、カラツキリガイダマシ、フナクイ ムシ、カキの密集、シシユウタマキガイ、ヒシの 仲間、ヤナギの一種、シラキの仲間、ガマズミの 仲間、メタセコイヤ、アカメガシワの仲間	23個	
岩石、鉱物資料（コートランド岩他） コートランド岩、珪線石含有黒雲母流紋岩、斑状 斑縞岩、斑状普通輝石橄欖石玄武岩、斑状角閃石 優黒質斑縞岩、正長石斑岩、スカルン、陽起石滑 石片岩	8個	
蝶類標本	5箱	
カミキリムシ類標本	5箱	
蛾類標本	5箱	
トンボ類標本	5箱	

(2) 考古資料

資料名	数量	備考
唐津市宇木鶴崎出土 有柄銅劍	1点	
宇木汲田遺跡出土 銅 矛	1点	複製
同上 銅 劍	1点	複製
同上 銅 舌	1点	複製

(3) 歴史資料

資料名	数量・規格	備考
狩野匡信筆 雪中鷺図	一幅 120.8×51.7	紙本墨画
広渡雪山筆 山水図	一幅 86.7×38.7	紙本墨画
作者不詳 架鷹図	6枚(各)128.2×35.4	紙本着色
林鳳岡文章	1枚 30.5×255	巻紙
筑紫箏	1面 147.5×24	
筑紫箏皆伝秘録	1巻 19.0×630	
琴経	1組(14冊)各29×19.5	
琴学大意	1冊 29.0×19.5	
箏曲大意抄	1冊 27.5×19.0	
楽器伝来いろの記	1冊 26.0×20.0	
筑紫箏 唱歌	1巻 19.0×500	

資料名	数量・規格	備考
筑紫箏奥歌	1巻 19.0×655	
音律調	1冊 19.0×12.5	
箏曲指譜篇目	1冊 26.5×19.5	
筑紫箏話	1冊 26.5×19.5	
越天楽楽譜	1帖 21.2×15.2	
楽譜平調越天楽	1巻 26.0×19.0	
筑紫箏十曲譜	1冊 27.5×19.0	
筑紫箏譜 奥の曲	1冊 28.0×21.0	
筑紫箏譜 奥の曲	1冊 29.0×21.0	
筑紫箏譜 奥の曲	1冊 31.0×24.0	
筑紫箏譜 春子作	1冊 28.0×20.5	
筑紫箏譜 別曲	1冊 27.5×20.0	
筑紫箏譜 別曲	1冊 29.0×21.0	
筑紫箏譜 前歌	1冊 27.0×19.5	
筑紫箏譜 乾坤	1組 30.0×22.0	
筑紫箏譜 乾	1冊 30.5×21.0	
筑紫箏譜 坤	1冊 27.5×21.0	
古曲筑紫箏譜 乾坤	1組 29.0×21.5	
神の訓	1冊 28.0×20.0	

(4) 民俗資料

資料名	数量	備考
樽作り工程資料 手桶、角樽、1斗漬物樽、製作工程品(6)、皮削り、内銃、カネベラ、口輪締め木、センプキ筒、ツッコクリ、アイキリ、小打槌、モトギリ、正直、木割り、竹割り、竹削り、竹の面取り、大打槌	24点	佐賀郡久保田町徳万 原田参次 (原田製樽所)
鍛冶資料 平鍛(平)、平鍛(丸)、三ツ又、唐鍛、備中鍛(首短)、備中鍛(首長)、山鉈、手斧、根切り斧、ハツリ斧、斧、造林鎌、鉈鎌、竹割、草かき、かき板、玄能、石ノミ、レイキ、ジョレン、屋根ふき鉄、フクロヤ、松の皮はぎ、杉の皮はぎ、中カン、3本カン、クラ、山芋ほり、穴ほり、トビ、薄刃庖丁、出刃庖丁、製作工程品(25)、柄付シンガネ、タガネ、大ハンマー、ハンマー、火バサミ、シキガネ、シンガネ	69点	神埼郡脊振村広滝 小川伶俐 (小川鍛冶屋)
浮立面作り工程資料 浮立面、シャグマ、製作工程品(5)、漆塗り工程品(3)、ノミ、木槌、金尺、パス、鋸	31点	鹿島市大字高津原4020 梶原一龍

2. 寄贈資料

(1) 自然科学資料

資料名	数量	寄贈者
蝶類標本	5箱	唐津市松南9-17 吉田喜美明
クワガタムシ標本	2箱	佐賀市高木瀬西3-3-216 森 繁利
カミキリムシ標本	1箱	佐賀市高木瀬西3-3-216 森 繁利
化石（フミガイの仲間他） フミガイの仲間、植物木片、アカメガシワ他、 カニ、カニの爪、巻貝、オウムガイ、エソバ イの仲間、クルミガイの仲間、炭化木	9個	杵島郡山内町島海9567 富岡好満

(2) 歴史資料

資料名	数量	寄贈者
松鶴文椀と膳	1式	東京都杉並区松ノ木3-25-12
長襦袢	1領	東京都杉並区松ノ木3-25-12
書籍等	14件	東京都杉並区松ノ木3-25-12
袴	1領	佐賀市唐人2丁目3-8 石井 卓
佐賀ガラス（ボトル）	1本	佐賀市堀川町1-32 木下ワカ
佐賀ガラス（脚付容器）	1組	佐賀市堀川町1-32 木下ワカ
佐賀ガラス（水注）	1本	佐賀市堀川町1-32 木下ワカ
佐賀ガラス（ボトル・グラス）	1組	佐賀市堀川町1-32 木下ワカ
琴	1面	佐賀市堀川町1-32 木下ワカ
琴（松の友）	1面	伊万里市二里町大里甲2207 浦山アヤ子
草場佩川筆 竹図屏風	1隻(各)159.8×349.8	武雄市武雄町西浦 竹田恒夫
草場佩川筆 竹図屏風	1隻(各扇)64×33.3	熊本県球磨郡相良村大字川辺 木村信雄
草場佩川筆 書画屏風	1隻(各扇)64.3×34	熊本県球磨郡相良村大字川辺 木村信雄
木造聖人龕	1軀	佐賀市若宮1丁目2-12 鶴田芳磨
木造羅漢像	1軀	佐賀市若宮1丁目2-12 鶴田芳磨

(3) 民俗資料

資料名	数量	寄贈者
北前型弁才船模型	1艘	佐賀郡諸富町大字大堂大堂神社 石丸定文
四爪碇	5本	佐賀郡諸富町大字大堂大堂神社 石丸定文

3. 寄託資料

資料名	数量	寄託者
副島種臣 書額「礼楽」	1	佐賀市・個人
中林梧竹 書額「鶴鹿山」	1	〃
中林梧竹 十七帖臨書屏風	1	〃
中林梧竹 五言絶句二首屏風	1	〃
頼山陽 八行書	1	〃
北島浅一 横臥裸婦	1	〃
木下逸雲 山水図	1	〃
㊦与謝蕪村 山水図	1	〃
南嶺筆 虎図	1	〃
㊦草場佩川 竹図	1	〃
刀銘「肥前國佐賀住吉永」	1	〃
古伊万里様式 染錦蕪仙人図角鉢	1	東京都・個人
滑石製外筒 仏法塔	1	大町町
銅経筒	1	大町町
佐賀県文化財指定書及び額縁	1	〃
筑紫楽私記	1	神埼郡・個人
筑紫箏秘録	1	〃
筑紫箏楽譜	1	〃
谷文晁筆 山水図襖	1	佐賀市・個人
(無款) 白衣観音図	1幅	〃
江越繡蒲筆 花鳥図屏風	6曲1隻	〃
草場佩川筆 朱子像	1幅	〃
㊦草場佩川筆 若松に鶴図	1幅	〃
㊦草場佩川筆 花鳥図	メクリ3枚	〃
草場船山筆 菊図	1幅	〃
呉煥筆 双鶴図	1幅	〃
山水図(曲江放邸図)	1幅	〃
小早川隆景書状(鶴田越前守宛)	1面	〃
草場佩川書状	1巻	〃
鍋島更紗蒲団 花木文	1枚	〃
鍋島更紗長着 唐花文	1振	北九州・個人

4. 資料の貸出状況

資 料 等	貸出先・目的	貸出・返却
唐津市桜馬場出土 方格規矩四神鏡 1面 上峰村一本谷遺跡出土 長宣子孫銘連孤文鏡 三津永田遺跡出土 明光鏡	大分市教育委員会 「化粧用具の歴史」展	63. 4. 20～6. 10
長崎海軍伝習所絵図 佐賀藩三重津海軍所絵図	長崎オレンジ村博物館 「資料展示」	63. 4. 7～5. 10
田代太田古墳後室奥壁復元模写 高井田横穴通路左側壁浮彫文模写	福岡市教育委員会 「古代の舟」展	63. 8. 18～10. 5
大友遺跡出土 ゴホウラ貝釧・イモガイ貝釧	榑大阪文化財センター 「日本列島発掘」展	63. 7. 10～9. 20
靈仙寺遺跡出土 陶製経筒	北九州市立考古博物館 「北九州の中国陶磁」展	63. 7. 21～9. 30
四季孔雀図（狩野高信） 海辺群鶴図（高柳快堂）	自然への憧憬展実行委員会 「自然への憧憬」展	63. 9. 15～12. 6
花島山遺跡出土 昭明鏡・案環頭刀子・玉・管玉	小郡市教育委員会 「定型化する古墳以前の墓制」展	63. 7. 1～9. 7
絹本着色見心来復像 他 6	万才寺（鳥栖市） 開山忌	63. 7. 24
有明海漁撈具（13点）	大牟田市歴史資料館 「有明の海」展	63. 7. 27～9. 17
柿右衛門様式 色絵花蝶図輪花形深鉢 色絵菊牡丹図面取徳利	香雪美術館（神戸市） 「有田の華」展	63. 9. 1～10. 24
桜馬場遺跡出土品一括 検見谷遺跡出土銅矛一括 安永田遺跡出土銅鐸鋳型一括	東京国立博物館 「日本の考古学」出版	63. 9. 14
朝日古墳出土 変形四獣鏡 石釧 目達原出土銅矛（4点） 三津永田出土銅鏡（2点）他 3点	神埼町教育委員会 「文化財調査10年の成果」展	63. 9. 20～9. 27
桜馬場遺跡出土鏡パネル 桜馬場遺跡出土有鉤銅釧ネガ 桜馬場遺跡出土有形銅器ネガ 立岩遺跡出土鏡パネル	筑紫野市歴史民俗資料館 「弥生の地宝を掘る」展	63. 9. 30～10. 20
町南遺跡出土弥生土器 他	埼玉県立博物館 「郷土学習室・常設展示」	63.10.5～64.10.4
鍋島閑叟二行書	早稲田大学図書館 展覧会出品のため	63. 10. 14～10. 30
日本の蝶パネル 佐賀県の蝶	呼子中学校 「九州地区理科教育研究会」	63. 10. 22～11. 1
脊振山経塚群出土遺物（16点）	脊振村教育委員会 「文化展」	63. 11. 21～11. 29
佐賀市熊本山古墳出土品一括	文化庁文化財保護部 「重文指定調査」	元. 1. 23～6. 30
真空ポンプ	堺市博物館 「日蘭修好380周年記念展」	元. 2. 21～6. 10

5. 購入・寄贈図書

(1) 購入図書

書名	発行所	書名	発行所
ループルとパリの美術⑧	㈱小学館	近代美術論集全3巻 フェノロサ美術論集	中央公論美術出版
日展史 ⑬	社団法人 日展	近代美術論集全3巻 木下藤次郎美術論集	㈱美術出版社
考古学叢考(上・中・下)	㈱吉川弘文館	近代美術論集全3巻 描かれた幕末明治	㈱雄松堂出版
国史大辞典	㈱吉川弘文館	ケンブリッジの西洋美術の流れ全8巻	㈱岩波書店
デアルテ	㈱西日本文化協会	日本美術史事典	㈱平凡社
日本水墨画論集	中央公論美術出版	日本デッサン集全8巻 ①②③⑤⑦⑧巻	学校法人 高澤学園
黄檗文化人名辞典	㈱思文閣出版	日本デッサン集全8巻 ④⑥巻	学校法人 高澤学園出版部
日本漆工の研究	㈱美術出版社	日本の美術館全9巻	㈱ぎょうせい
日本古墳文化資料総覧	㈱臨川書店	世界美術大事典全6巻	㈱小学館
浦野理一「紅毛渡り江戸更紗」	文化出版局	中世屏風絵	㈱京都書院
浦野理一「黄八丈」	文化出版局	近世日本絵画集成	㈱京都書院
浦野理一「唐棧」	文化出版局	中国絵画史(中之二)	㈱吉川弘文館
浦野理一「日本染織総華」	文化出版局	梧竹臨書精選全6巻	教育書籍 ㈱
中原哲泉「京七宝文様」	㈱淡交社	皇居杉戸絵	㈱京都書院
彦根更紗	光琳社出版 ㈱	校本歴代名画記	中央公論美術出版

(2) 寄贈図書

書名	寄贈者	書名	寄贈者
日展史⑭日展編五 昭和32年	社団法人 日展	古美術百萬人のコレクション	㈱東洋総企
時代裂他 1セット	中野 隆 明	江戸庶民の染織	庄野 辰 一
鐘紡コレクション5 名物裂帖	香雪美術館	清原啓子作品集	㈱美術出版社
牧野宗則木版画集	㈱山下画廊		

この他、全国の美術館、博物館、研究所、各県教育委員会、各市教育委員会などから貴重な調査研究書、図録、報告書類を膨大な点数御恵贈いただいております。

茶室「清恵庵」の管理と運営の概況

1 茶室の規模および施設

茶室「清恵庵」は昭和48年10月郷土出身の実業家故市村清氏のご遺志により、同夫人幸恵氏より本県に寄贈されたもので、今年で15年目を迎える。利用の傾向としては普及が広く一般に浸透し、県内、県外の茶道各流派のグループによる利用や、各種団体による茶会など幅広く利用された。

設計者 堀口捨己 東京都大田区山王 4-6-5
早川正夫 東京都港区青山 5-9-12
アイザワビル

構造 木造平家建 寄棟造り

規模 床面積 57.35㎡

2 茶室の利用状況

茶室「清恵庵」の利用については、15年目に入り県内はもとより県外にも広く周知され、好評を得ている。

今年度は、各流の茶道グループ、婦人学級、青年団、学校などの団体あるいは、茶道愛好会など利用者の幅もさらに広まり、社会教育、学校教育の一環として広く利用された。

月別にみた利用状況は次のとおりである。

昭和63年度			
月	利用団体数	利用者数	見学者数
4	2	12	0
5	1	39	0
6	1	18	4
7	1	11	0
8	1	19	3
9	0	0	0
10	1	29	3
11	1	7	4
12	0	0	0
1	3	70	9
2	0	0	1
3	1	27	4
計	12	232	28

3 茶道具備品

昭和62年度末の概況は次のとおり191点である。

掛物 淡々斎宗室、希斎宗有、大徳寺桃林の書、村瀬玄妙の書、売茶翁の二行書、千宗佐、千代尼

花入 胡銅、朝鮮唐津「中里重利作」、黒牟田焼「丸田正美作」、小山路焼「江口勝美作」、大川内焼青磁「小笠原盛作」、備前焼、竹花入「生野祥雲斎作」、竹一重切花入「宗陵作」、有馬千鳥籠花入、有馬ひさご籠花入「昭竹斎作」、青磁鶴首花入「小笠原盛作」
香合・香炉 「12代今泉今右衛門作」、「井上萬二作」、黒牟田焼「丸田正美作」、「宗祥作」、菊花書詰蒔絵卵香合「助市作」、「13代今泉今右衛門作」、「源右衛門作」

茶碗 唐津奥高麗「中里無庵作」、絵唐津・唐津刷毛目「13代中里太郎右衛門作」、黒牟田焼「丸田正美作」、小山路焼「江口勝美作」、大川内焼青磁「小笠原盛作」、青磁「中島宏作」、唐津井戸・唐津皮鯨茶碗「中里重利作」、白磁茶碗「初代忠右衛門作」、黒染茶碗「小川長染作」、志野茶碗「荒川豊蔵作」、支那焼、高麗斗々屋「千漢鳳作」

水指 信楽焼「高橋染斎作」、朝鮮唐津「中里重利作」、小山路焼「江口勝美作」、染付「12代今泉今右衛門作」、高麗「千漢鳳作」

薄茶器 沈金聚「安村稔作」

濃茶器 「13代酒井田柿右衛門作」

茶杓 「宗泰作」

風炉 利休面取風炉、切合唐銅風炉、合金面取風炉、鬼面共耳風炉

釜 切合釜・竹紋線口釜「松寿作」、筋入炉釜、菊桐地紋炉釜、雲竜釜「高橋敬典作」、尻張釜「高橋敬典作」、鬼面共耳風炉釜「横倉嘉山作」

棚 竹台子、桐丸卓、桑小卓、真塗長坂

火入 染付「12代今泉今右衛門作」

菓子器 唐津焼「13代太郎右衛門作」、黒牟田焼「丸田正美作」、小山路焼「江口勝美作」、青磁「中島宏作」、現川焼

建水 不密庵伝来写「11代中川浄益作」、黒牟田焼「丸田正美作」、小山路焼「江口勝美作」、唐銅

風炉先屏風 秋草蒔絵

炉縁 高台寺蒔絵「柴田利雄作」

曲湯桶、置炉、瓶掛、蒔繪塗四方盆、茶托と蓋、茶碾、茶壺

昭和63年度

佐賀県立美術館

美術館の沿革

昭和55年3月	県政百周年記念事業の一環として、昭和58年開館を目指し、佐賀県立美術館の建設を決定。
昭和55年4月25日	佐賀県立美術館建設委員会設置。
12月10日	安井建築設計事務所による基本設計採用。
昭和56年3月31日	安井建築設計事務所による実施設計採用。
10月26日	佐賀県立美術館建設着工。
昭和58年1月31日	佐賀県立美術館建設完工。
4月1日	佐賀県立美術館設置条例施行。 佐賀県博物館及び美術館協議会条例施行。 佐賀県立美術館処務規則施行。
10月7日	山口亮一氏遺作64点を山口三千也氏より寄贈受く。
10月8日	佐賀県立美術館落成式、開館記念展「近代・九州の洋画家たち展」開かる。
昭和61年9月1日	石本秀雄氏遺作31点を遺族より寄贈受く。
昭和63年9月30日	佐賀県立美術館開館5周年記念展「田園風俗画展」開催。

以上のほか、多くの方々から貴重な資料を寄贈して頂きました。
ここには点数の特に多いもののみを記載しました。

美術館日誌 昭和63年度

4月1日	職員人事異動	9月30日	美術館開館5周年記念展
4月2日	第2回佐賀県現代作家美術展（～17日）		田園風俗画展（～10月23日）
4月28日	日展（～5月22日）	10月30日	第12回佐賀県高等学校芸術祭美術・書道展（～11月6日）
5月28日	第1期常設展「近代の美術・工芸」 （6月12日）	11月19日	第38回佐賀県美術展（～27日）
6月1日	第35回子どもの日書道展（～5日）	11月30日	第9回佐賀新聞学生書道展 （～12月4日）
6月7日	第13回九州藍荷会かな書作展 （～12日）	12月6日	第30回佐賀大学教育学部美術・工芸科総合展（～11日）
6月18日	第71回佐賀美術協会展（～26日）	12月13日	第39回佐賀県学童美術展（～18日）
6月29日	第2期常設展「近代の美術・工芸」 （～9月25日）	12月28日	執務納め式
7月5日	第13回佐賀県書作家協会展（～10日）	1月4日	執務始め式
7月13日	第5回佐賀県写真協会展（～17日）	1月10日	第11回佐賀行動展（～16日）
7月20日	第19回独立C・S展（～24日）	1月18日	第5回佐賀水墨画展（～22日）
7月26日	東光会佐賀支部緑光会展（～31日） 第5回美術館実技講座 石膏デッサン教室（～31日）	1月27日	ル・アープル美術館展（～2月26日）
8月3日	第16回七夕書道展（～7日）	3月1日	第3回ハチロク展（～5日）
8月13日	美術館自主企画写真会（～14日） 「はだしのゲン」他	3月7日	第37回佐賀大学美術工芸科卒業制作展 （～12日）
8月16日	第9回九州新工芸展（～21日）	3月14日	富永将揮展（～19日）
8月24日	第8回創元会佐賀県支部展（～28日）	3月21日	二紀佐賀グループ展（～26日）
8月31日	九州国画会第1回佐賀支部写真展 （～9月4日）		
9月6日	第20回佐賀県勤労者美術展（～11日）		
9月14日	宮地 亨記念展（～25日）		

規模および施設

構造	鉄筋コンクリート造	一階建	一部二階建		
規模	敷地面積	7,986㎡			
	建築面積	3,644㎡			
	延床面積	4,238㎡			
施設	1号展示室	204㎡	倉庫	5㎡	
	2号展示室	230㎡	ホール	529㎡	
	3号展示室	250㎡	和楽室・洋楽室	39㎡	
	4号展示室	366㎡	準備室	18㎡	
	収蔵庫	319㎡	映写室	12㎡	
	収蔵庫前室	26㎡	機械室	47㎡	
	荷解場	120㎡	倉庫	13㎡	
	倉庫	79㎡	便所	34㎡	
	画廊・準備室	137㎡	ホワイエ	126㎡	
	研修室	135㎡	休憩室	56㎡	
	事務室	148㎡	便所	93㎡	
	写真室・暗室	58㎡	廊下・階段等	1,114㎡	
	機械室	80㎡			

※組織は全て博物館と同様であり、博物館職員全員がそれぞれ対応する職を兼務している。

昭和63年度 美術館歳出予算

科 目	予算額 (単位千円)	科 目	予算額 (単位千円)
(美術館費)		3. 調査研究費	147
1. 管理運営費	44,323	研究費	85
管理費	44,203	調査費	62
会議及び研修費	120	4. 企画展費	7,912
2. 資料整備費	117,739	5. 常設展費	1,557
資料購入費	112,212	6. 普及活動費	127
資料整理費	5,337	7. 資料目録刊行費	2,677
資料収集費	190	計	174,482

事業の実施状況

1. 昭和63年度 美術館常設展

第1期 5月28日～6月12日

第2期 6月29日～9月25日

第3期 12月1日～1月22日

第4期 3月1日～3月31日

※3号展示室は新収蔵品展

I 彫 刻

芸術員会員として活躍した故・古賀忠雄の作品を展示。15点。「子供」「半裸の労働者」などを新たに展示した。

II 版 画

期間：12月1日(木)～1月22日(日)・第3期

会場：3号展示室

「ベルナール・ピュフェ」

1. ジャン・コクトーの戯曲「人間の声」挿画より
Jean Cocteau : La Voix Humaine

1957制作のドライポイント22点のうち10点：185、186、187、191、193、195、199、202、203、205

2. シラノ・ド・ベルジュラックの「日月両世界空想旅行」挿画より

Cyrano de Berugerac : Voyages Fantastiques
Aux Etats Et Empires De La Lune Etbu Soleil

1958制作のドライポイント20点のうち5点：208、210、211、217

3. その他、博物誌をテーマに9点

183 蕨	279 ふくろう
247 雄鶏	280 海燕 (アジサシ)
261 蟹	281 鳥の骨格
272 カモシカ	
273 魚	

III 工 芸

期間：5月28日(出)～6月12日(日)・第1期

会場：2号展示室

「光と色彩のいぶき」

陶芸県佐賀にあって、伝統と風土に根づいた独自の

活躍をする染織工芸、ガラス工芸家達を紹介する。

型絵染に始まり「鍋島更紗」復元に賭けた染色家鈴木照次、その木版摺更紗は自然をモチーフに新しい伝統工芸の世界を創造したが、新境地への展開の前に病没。

金銀箔や漆で彩った経紙と絹の緯糸で織り上げられる繊細な佐賀錦の世界を、淡い色彩で表現した相島正彦。古式の薄い織り板からうまれる幾何学模様は、豊かな光と陰で作家の心象風景を物語る。

城秀夫の染色は、版画でいうエッチングやドライポイントの技法を布の上に展開したものである。針や鉄筆でかき落とした線の脱色効果は、樹木を主題とした生命力をたかだかにうたいあげる。

たゆたう有明海の水辺と陽光は、小川泰彦の手で捕えられて色鮮やかに布を染める。強烈な色彩から、ここ数年次第に明るく軽やかな有明の表情にかわってきた。

佐賀藩精煉方でガラス工房を管理したという祖父から、職人の父に伝えられた「宙吹き」の技術、これが副島太郎の創作ガラスの原点である。色を重ねる「被せ」の技法に、グラビユールで刻まれる文様。ここには伝統に根ざしながら現代を表現しようとする作家の姿勢が感じられる。

1. 城 秀夫 染色 遠 望
第2回日本新工芸展、昭和55
2. 城 秀夫 染色 幽 遠
第14回日本現代工芸展、昭和50
3. 城 秀夫 染色 山 嘯
第14回日展、昭和57
4. 城 秀夫 染色屏風 開 放
第11回日展、無監査、昭和43
5. 城 秀夫 染色屏風 現代想
改組第1回日展特選、昭和44
6. 城 秀夫 染色 山 麓
第16回日展、昭和59
7. 城 秀夫 染色 回昔仕姿
第16回日展、昭和59
8. 小川泰彦 染色 有明回帰
第71回光風会、昭和60
9. 小川泰彦 染色屏風 有 明
第11回日展特選、昭和54
10. 小川泰彦 染色屏風 渡る日近く
第19回日展、昭和62 (一時預かり)
11. 副島太郎 硝子 火の国回想

- 第18回日展、昭和61（一時預かり）
12. 副島太郎 硝子 瑠璃色器
第68回光風会、昭和57
 13. 副島太郎 硝子 夜明け
第7回日本新工芸展、昭和60
 14. 副島太郎 硝子 紅 彩
第16回日展、昭和59
 15. 鈴田照次 型絵染着物 芋の葉文
第10回新匠会、昭和31
 16. 鈴田照次 型絵染着物 南の花文
昭和39
 17. 鈴田照次 木版摺更紗着物 松 文
第20回日本伝統工芸展、昭和48
 18. 鈴田照次 木版摺更紗着物 竹 文
第15回伝統工芸日本染織展、昭和53
 19. 鈴田照次 木版摺更紗着物 松竹梅文
第22回日本伝統工芸展、昭和50
 20. 鈴田照次 木版摺更紗着物 松の花文
第25回日本伝統工芸展、昭和53
 21. 相島正彦 佐賀錦帯 彩 光
第25回日本伝統工芸展、昭和53
 22. 相島正彦 佐賀錦三ツ折バッグ 流 水
第19回日本伝統工芸展、昭和47
 23. 相島正彦 佐賀錦三ツ折バッグ 鶴 瑞
第14回伝統工芸日本染織展、昭和47
 24. 相島正彦 佐賀錦三ツ折バッグ 霧
第20回日本伝統工芸展、昭和4
 25. 相島正彦 佐賀錦三ツ折バッグ 暁
第12回伝統工芸日本染織展、昭和50
 26. 相島正彦 佐賀錦三ツ折バッグ 菱
第13回伝統工芸日本染織展、昭和51
 27. 相島正彦 佐賀錦三ツ折バッグ 藤
第14回日本伝統工芸染織展、昭和52
 28. 相島正彦 佐賀錦三ツ折バッグ 氷 紋
第22回日本伝統工芸展、昭和50
- 期間：1988年6月14日(火)～9月25日(日)・第1～2期
会場：1号B展示室

「現代に生きる伝統」

鍋島緞通を織る吉島義子、宙吹きガラスで創作する副島太郎。

1. 吉島義子 鍋島緞通 蟹牡丹文
昭和60
2. 吉島義子 鍋島緞通 蔓牡丹文
昭和59

3. 副島太郎 硝子 火の国回想
第18回日展、昭和61（一時預かり）
4. 副島太郎 硝子 瑠璃色器
第68回光風会、昭和57
5. 副島太郎 硝子 夜明け
第7回日本新工芸展、昭和60
6. 副島太郎 硝子 紅 彩
第16回日展、昭和59

期間：12月1日(木)～2月26日(日)・第3期

会場：1号B展示室

「今、インド更紗は……木版染更紗を染める 緒方義彦」のタイトルで、武雄在住の若手染色家緒方義彦（1953～）の手でインド更紗の木版染技法が蘇る様子を、着物、帯、布を通して紹介する。（7件8点）

1. 型絵染着物 定田^{ひつた}に野草文
1987稲垣稔次郎を模す、絹細地
 2. 型絵染帯 空水山風文
1987、麻地
 3. 木版染更紗布 幾何文
1980木綿地習作（2面）
 4. 木版染更紗帯 幾何斜文
第57回国画会展、1983、麻地
 5. 型絵染帯 母子草文
1981、木綿地
 6. 木版染更紗帯 網代文^{あしろ}
第56回国画会展、1982、木綿地
 7. 木版・型染着物 松文
第59回国画会展、1985、絹細地
- 期間：3月1日(木)～3月31日(金)
会場：1号展示室（A・B）
A 古賀忠雄の彫刻作品
B 青木 繁の油彩画（9点）

近代・現代美術

第I・II期 百武兼行、岡田三郎助、久米桂一郎ら近代洋画の先覚者の作品を中心に展示した。同時に収蔵品によるミニ企画展「語りかける裸婦たち」を開催。岡田、立石春美、村岡平蔵、古沢岩美他5人の裸婦像19点を展示した。

第III期 岡田三郎助の油彩画「老人像」「花野」「富士山」など30点を展示し、今回はとくに習作、スケッチ類を展示した。

2. 昭和63年度 美術館新収蔵品展

会 期 3月1日(休)～5月7日(日)

会 場 2、3号展示室

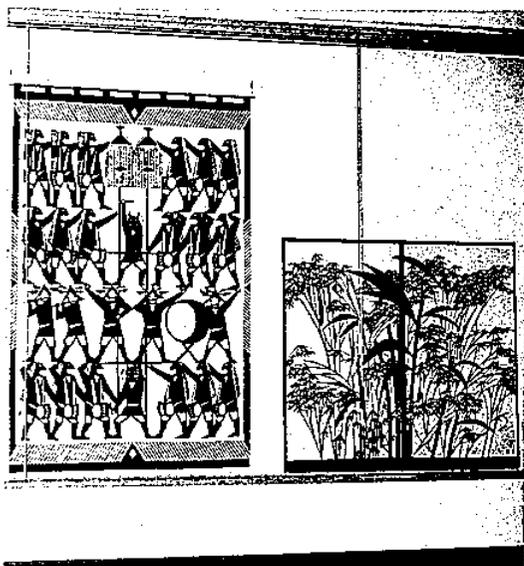
近代・現代美術

作 者 名	作 品 名	制 作 年	備 考
吉 武 研 司	熱 さ の せ い	昭和59	購入
吉 武 研 司	恋 人 た ち	昭和59	寄贈
大 隈 武 夫	の び ゆ く 樹	昭和40	購入
大 隈 武 夫	城 跡 の 樹	昭和35	寄贈
大 隈 武 夫	聖 地 ・ ハ ル ド ワ ル ド	昭和57	寄贈
北 島 浅 一	肘 掛 け 椅 子 の 裸 婦	大正中頃	購入
北 島 浅 一	ポ ー ズ す る 裸 婦	大正中頃	購入
北 島 浅 一	初 夏	大正末頃	購入
北 島 浅 一	雪 景	昭和初頃	購入
北 島 浅 一	荒 磯	昭和10頃	購入
鍋 島 紀 雄	山 麓	昭和27	購入
鍋 島 紀 雄	白 花 の 行 方	昭和37	購入
鍋 島 紀 雄	り ん ご	昭和43	寄贈
立 石 春 美	静 農	昭和40(第8回日展)	寄贈
立 石 春 美	華 岡 青 州 の 妻	昭和42、3頃	寄贈
立 石 春 美	白 い 帽 子	昭和45(第2回日展)	寄贈
立 石 春 美	瓶 と 女 性	昭和46(第3回日展)	寄贈
立 石 春 美	寂(じゃく)	昭和48(第5回日展)	寄贈
立 石 春 美	華 の 幻 想	昭和49(第6回日展)	寄贈
立 石 春 美	井 上 傳 女	昭和51(第8回日展)	寄贈
立 石 春 美	宗 白 無 庵 先 生 像	昭和54(第11回日展)	寄贈
立 石 春 美	灼	昭和55(第12回日展)	寄贈
立 石 春 美	コ ン ダ ク タ ー	昭和57(第14回日展)	寄贈
立 石 春 美	藍 華 (あ お ば な)	昭和58(第15回日展)	寄贈
立 石 春 美	宙	昭和61(第18回日展)	購入
牧 野 宗 則	天 華 (て ん げ)	昭和63	購入
小 崎 侃	葉 隠 (連 作)	昭和63	購入
岡 田 三 郎 助	藤 山 雷 太 像	大正3	購入
岡 田 三 郎 助	花 野	大正6	購入
宮 地 亨	斜 陽	昭和26	寄託
宮 地 亨	志 賀 の 磯	昭和60	寄託
宮 地 亨	爽 朝	昭和62	寄託
北 島 浅 一	横 た わ る 裸 婦	昭和10～15	寄託
北 島 治 樹	祀	昭和63	(県買い上げ)洋画

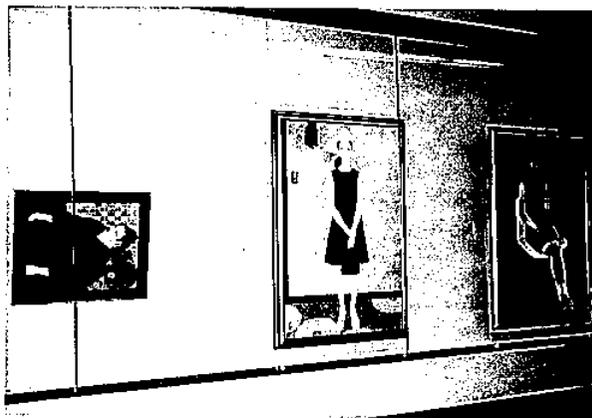
作者名	作品名	制作年	備考
徳安和博	束縛と抵抗	昭和63	(県買い上げ)彫刻
秋吉実	夢(トマト)	昭和63	(県買い上げ)写真
横谷孝史	ジャズマンは黒い靴 I・II	昭和63	(県買い上げ)デザイン

工 芸

作者名	作品名	制作年	備考
鈴田照次	型絵染襖 竹文	昭和33(1958)	購入
鈴田照次	型絵染壁掛面浮立図	昭和36(1961)	購入
鈴田照次	木版摺更紗着物 未央柳文	昭和56(1981)	購入
田代睦子	省胎七宝 はなみずき文子鉢	昭和63(1988)	文化課より管理換



新収蔵品展から



3. 昭和63年度特別企画

美術館開館5周年記念展「田園風俗画展」

主催 佐賀県立美術館

会期 昭和63年9月30日(金)~10月23日(日)

会場 美術館1 B・2・3・4号展示室

観覧料 大人 大・高生 中・小生

個人 500円 250円 150円

団体(400円) (150円) (100円)

図録 A4版変形、アート紙132頁(カラー23頁)

展示概要

展示会は、室町末以降江戸期を通じて多くの遺品を見る「四季耕作図」の系譜をたどる意図で企画した。そのため、中心となる狩野派の四季耕作図と共に、それらがよりどころとした中国の「耕織図」やその模本を展示したが、併せて平安以降の伝統に基づく大和絵系や琳派、南画派、円山四条派など、耕作も含め広く田園生活に取材した絵画作品を集めた。

さらに、絵画作品との影響関係という点から挿図をとまなう農業技術書等の版本類、幕末・明治の耕作図絵馬なども含め計54点(重文4、重美2)を展示した。

四季耕作図の系譜については、「月次風俗図」(東京国立博物館)、伝狩野之信筆「四季耕作図」(大仙院)、久隅守景筆「四季耕作図屏風」(京都国立博物館)の3点を核として、それぞれ、前段階の基盤としての大和絵の伝統・中国絵画の影響による四季耕作図の誕生・日本の風俗画としての消化といった大まかな変遷の図式を確認することができた。

展示会の内容は、身近な題材でもあり、絵画作品としてだけではなく、失われた過去の風俗を顧みる資料としても有用であるところから、親しみ深く多様な興味によって鑑賞できたのではなかったろうか。



ポスター



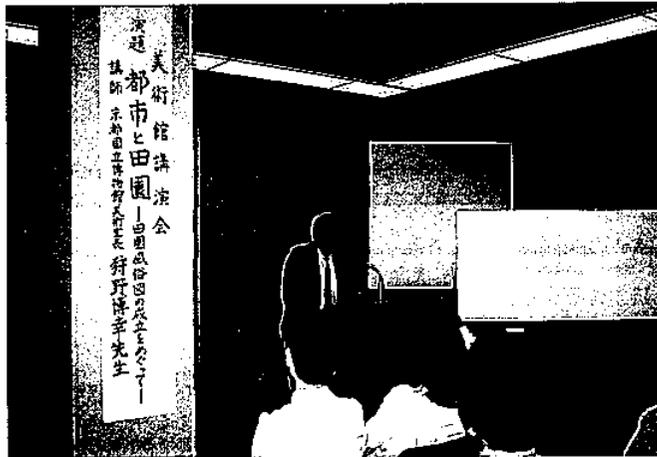
図録

出品目録

◎は重要文化財 ○は重要美術品 ◇は佐賀県重要有形民俗文化財

番号	作者など	資料名	形状・員数	所蔵
1	土佐光茂	墾田図	二幅	東京国立博物館
2		◎月次風俗図	八曲一隻	東京国立博物館
3		都鄙図屏風	八曲一隻	静岡県立美術館
4		俵かさね耕作絵巻	二巻	福岡市博物館
5	◎狩野之信	◎四季耕作図	八幅	大仙院
6	◎狩野元信	四季耕作図屏風	六曲一隻	鹿児島県歴史資料センター黎明館
7	等薩	四季耕作図屏風	六曲一隻	
8		耕織図屏風	六曲一双	
9		四季耕作図屏風	六曲一双	
10		◎黒木書院二之間襖絵	四面	名古屋城
11	岩佐又兵衛	四季耕作図屏風	六曲一双	出光美術館
12	狩野山雪	四季耕作図屏風	八曲一双	東京芸術大学
13	狩野探幽	四季耕作図屏風	六曲一双	京都国立博物館
14	狩野探幽	○人形仏絵蚕図巻	一巻	
15	広渡心海	農耕図	一幅	武雄市教育委員会
16	久隅守景	耕作織蚕図屏風	八曲一双	相成寺
17	久隅守景	○四季耕作図屏風	六曲一双	京都国立博物館
18	久隅守景	◎四季耕作図屏風	六曲一双	
19	英一蝶	朝暎曳馬図	一幅	静嘉堂文庫
20	木村探元	四季耕作図	一幅	鹿児島県歴史資料センター黎明館
21	矢野良勝	四季耕作図屏風	六曲一双	福岡県立美術館
22	尾形探香	四季耕作図屏風	六曲一双	
23		四季耕作図画稿	六枚	
24	既白	養蚕耕絵巻	二巻	国立歴史民俗博物館
25	狩野周信	花鳥・耕織図巻	二巻	板橋区立美術館
26	伊沢寿斎	伝梁楷筆耕織図	二巻	東京国立博物館
27	彭城百川	田植図	一幅	東京国立博物館
28	池大雅	山水図	一幅	出光美術館
29	池大雅	秋社之図屏風	六曲一双	
30	与謝蕉村	四季耕作図屏風	六曲一双	東京国立博物館
31	渡辺始興	農夫図屏風	二曲一隻	
32	長沢虚雪	田植図	一幅	
33	呉春	耕作図巻	一巻	佐賀県立博物館
34	吉村孝敬	四季耕作図屏風	六曲一双	
35	円山応震	田植図	一幅	佐賀県立博物館
36	長谷川玉峰	耕作・碓図	二幅	
37	長谷川雪且	四季耕作図屏風	六曲一双	
38	司馬江漢	牛追図	一幅	佐賀県立博物館
39	河鍋曉斎	四季耕作図	二幅	
40	周幽斎夏龍	耕織図屏風	六曲一双	
41	竹下主広	虫追祭図屏風	六曲一双	

番号	作者など	資料名	形状・員数	所蔵
42	狩野永納模刻	耕織図	二冊	早稲田大学図書館
43		御製耕織図	一帖	早稲田大学図書館
44	石川流宣	大和耕作集	四冊	京都大学農学部
45	布袋庵柳几編	大和耕作集	二冊	柿衛文庫
46	宮崎安貞	農業全書	十一冊	早稲田大学図書館
47	島津重豪	成形図説(多色刷)	五冊	鹿児島県歴史資料センター黎明館
48	島津重豪	成形図説(単色刷)	三十冊	福岡市博物館
49	大蔵永常	除蝗録	一冊	福岡市博物館
50	秀島鼓溪	農桑道利	十四冊	
51		四季耕作図絵馬	一面	稲主神社
52		四季耕作図絵馬	一面	黒髪神社
53		四季耕作図絵馬	一面	曾根神社
54	広渡三舟	◇面浮立絵馬	一面	富岡天満宮



記念講演会「都市と田園―田園風俗画の成立をめぐる―」



会場風景

4. 企画展ならびにその他の展覧会 昭和63年度

展覧会名	会期	主催
第2回佐賀県現代作家美術展	4/1～4/19	佐賀新聞社、佐賀県立美術館
第19回日展	4/28～5/22	社団法人日展、佐賀県、佐賀市、佐賀県教育委員会、佐賀市教育委員会、佐賀県立博物館・美術館、サガテレビ、テレビ西日本、西日本新聞社
第35回子どもの日書道展	6/1～6/5	佐賀大学学生書道研究会
第13回九州藍菊会かな書作展	6/7～6/12	九州藍菊会
第71回佐賀美術協会展	6/18～6/26	佐賀美術協会、佐賀県立美術館
第13回佐賀県書作家協会展	7/5～7/10	佐賀県書作家協会、佐賀県立美術館
第5回佐賀県写真協会展	7/13～7/17	佐賀県写真協会、佐賀県立美術館
第19回独立C・S展	7/20～7/24	佐賀独立C・S
東光会佐賀支部緑光会展	7/26～7/31	緑光会
第16回七夕書道展	8/3～8/7	佐賀県書道教育連盟、佐賀県立美術館
第9回九州新工芸展	8/16～8/21	九州新工芸家連盟、佐賀県立美術館
第8回創元会佐賀県支部展	8/24～8/28	創元会佐賀県支部
九州国画会第1回佐賀支部写真展	8/31～9/4	九州国画会佐賀支部
第20回佐賀県勤労者美術展	9/7～9/11	佐賀県庁労政訓練課、佐賀県立美術館
宮地享記念展	9/14～9/25	宮地享展実行委員会
美術館開館5周年記念 田園風俗画展	9/30～10/23	佐賀県立美術館
第12回佐賀県高等学校芸術祭 美術・書道展	10/30～11/6	佐賀県教育委員会、佐賀県高等学校教育研究会芸術部会、佐賀県高等学校美術連盟、佐賀県高等学校書道教育研究会
第38回佐賀県美術展	11/19～11/27	佐賀県、佐賀県教育委員会、佐賀県立美術館、佐賀県立博物館
第9回佐賀新聞学生書道展	11/30～12/4	佐賀新聞社
第30回佐賀大学教育学部 美術・工芸科総合展	12/6～12/11	佐賀大学教育学部、佐賀県立美術館
第39回佐賀県学童美術展	12/13～12/18	佐賀県造形教育研究会、佐賀県立美術館
第11回さが行動美術展	1/10～1/16	さが行動美術協会
第5回佐賀水墨画会展	1/18～1/22	佐賀水墨画会
ル・アール美術館展	1/27～2/26	佐賀新聞社、佐賀県立美術館
第3回ハチロク展	3/1～3/5	ハチロク会
第37回佐賀大学美術・工芸科 卒業制作展	3/7～3/12	佐賀大学教育学部、佐賀県立美術館
富永将暉展 一墨の象一	3/14～3/19	富永将暉
第11回二紀佐賀グループ展	3/21～3/26	二紀会佐賀支部

展 示 概 要	会 場
日本画、洋画、彫刻、工芸、書、デザイン、写真約200点	美術館 2・3・4号
日本画、洋画、彫刻、工芸美術、書、約450点	美術館 1号(A・B) 2・3・4号
県内幼・小・中学生の書3,000点	美術館 4号
かな書作品約100点	美術館 4号
日本画、洋画、彫刻、工芸約450点	美術館 2・3・4号
会員・一般公募の書作品約180点	美術館 4号
協会のパネル写真約200点	美術館 4号
油彩などの平面作品約40点	美術館 4号
会員の油彩を中心にした作品約80点	美術館 4号
県下児童生徒及び高校一般の書作品	美術館 4号
会員・会友および一般の工芸作品	美術館 4号
油絵40点	美術館 4号
会員、会友、同人、支部員のパネル写真約200点	美術館 4号
絵画、工芸、写真、書150点	美術館 4号
油彩画回顧展	美術館 4号
耕作図など田園生活を題材にした近世風俗画を屏風中心に約60点	美術館 2・3・4号
県内高等学校生徒の美術工芸・書道作品500点	美術館 2・3・4号
日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真、デザイン約450点	美術館 2・3・4号
県内の小・中・高校生の入選作品約200点	美術館 4号
油絵、日本画、彫刻、デザイン、工芸110点	美術館 4号
県内小・中学生の絵画・デザイン・クロッキーなど約600点	美術館 4号
さが行動美術協会メンバーによる平面・立体・油彩作品約40点	美術館 4号
会員80名による佐賀県内の風景画等の作品	美術館 4号
ル・アーブル市にある4つの美術館の作品から約80点を紹介。モネ、デュフィなど	美術館 2・3・4号
総合美術展、会員の作品約90点	美術館 4号
日本画、油絵、彫刻、工芸、デザイン等約70点	美術館 4号
書	美術館 4号
油彩、彫刻35点	美術館 4号

5. 美術館観覧状況調べ 昭和63年度

展 覧 会 名	個 人			団 体		
	大 人	大・高	中・小	大 人	大・高	中・小
第 2 回 佐 賀 県 現 代 作 家 美 術 展	4,986	337	715	46	156	20
第 19 回 日 展	19,910	3,453	3,696	0	339	1,245
第 35 回 子 ど も の 日 書 道 展	344	1	200	0	0	0
第13回 九州藍笥会かな哲作展	377	101	5	0	0	0
第 71 回 佐 賀 美 術 協 会 展	1,970	298	337	0	131	479
第13回 佐賀県書作家協会展	857	204	71	0	0	0
第5回 佐賀県写真協会展	757	111	163	0	0	44
第19回 独 立 C ・ S 展	408	65	85	0	0	0
東光会佐賀支部緑光会展	734	97	507	0	0	0
第16回 七 夕 書 道 展	735	16	681	0	0	0
第9回 九州新工芸展	961	58	155	0	0	0
第8回 創元会佐賀県支部展	574	26	88	0	0	0
九州国画会第1回佐賀支部写真展	539	7	48	0	0	0
第 20 回 佐 賀 県 勤 労 者 美 術 展	1,144	11	52	0	38	0
宮 地 享 記 念 展	2,604	29	337	0	127	406
美 術 館 開 館 5 周 年 記 念 田園風俗画展	1,888	77	120	200	238	660
第 12 回 佐 賀 県 高 等 学 校 美 術 祭 美術・書道展	844	463	166	24	803	91
第 38 回 佐 賀 県 美 術 展	4,529	454	737	544	122	474
第 9 回 佐 賀 新 聞 学 生 書 道 展	290	6	179	0	0	0
第 30 回 佐 賀 大 学 教 育 学 部 美術・工芸科総合展	364	200	87	0	0	0
第 39 回 佐 賀 県 学 童 美 術 展	1,264	122	803	0	0	1,384
第11回 さ が 行 動 美 術 展	535	59	158	0	0	0
第5回 佐賀水墨画会展	1,202	18	78	0	0	86
ル・アール美術館展	15,449	1,044	4,182	98	1,229	1,922
第 3 回 ハ チ ロ ク 展	984	42	109	69	0	45
佐賀大学美術工芸科卒業製作展	446	275	48	100	0	0
富永将暉展 一墨の象一	385	17	83	0	199	0
第 11 回 二 紀 佐 賀 グ ル ー プ 展	367	30	40	76	12	3
計	65,447	7,621	13,930	1,157	3,394	6,859

観覧料免除			招待者	優待者	合計	開館日数	一日平均	会期期間
大人	大・高	中・小						
			2,805		9,065	14	647	4/1~4/19
			4,247		33,155	22	1,507	4/28~5/22
			4		64	5	109	6/1~6/15
			0		82	6	67	6/7~6/12
			0		197	8	404	6/18~6/26
			0		135	6	188	7/5~7/10
			0		1,075	5	215	7/13~7/17
			0		558	5	111	7/20~7/24
			0		1,336	6	222	7/26~7/31
			0		1,432	5	286	8/3~8/7
			0		1,174	6	195	8/16~8/21
			6		694	5	138	8/24~8/28
			0		594	5	118	8/31~9/4
			0		1,245	5	249	9/7~9/11
			0		3,503	11	318	9/14~9/25
			1,028		4,211	21	200	9/30~10/23
			0		2,391	7	341	10/30~11/6
			2,194		9,054	8	1,131	11/19~11/27
			0		475	5	95	11/30~12/4
			0		651	6	108	12/6~12/11
			0		3,573	6	595	12/13~12/18
			0		752	7	107	1/10~1/16
			0		1,382	5	276	1/18~1/22
			6,087		30,011	27	1,148	1/27~2/26
			0		1,249	5	249	3/1~3/5
			0		869	6	144	3/7~3/12
			90		774	6	129	3/14~3/19
			0		528	6	105	3/21~3/26
			16,461		110,229	229	481	

6. 普及活動

(1) 資料の刊行

館報・年報・調査研究書 博物館と合同で刊行した。

図録 「田園風俗画展」の項を参照のこと。

(2) 実技講座：石膏デッサン教室

講師 山田直行氏 佐賀女子短期大学教授

会期 昭和63年7月26日～7月31日

(但し、29日は休講)

15:30～17:30 (2時間)

会場 佐賀県立美術館研修室

受講者 28名

7. 資料調査

昭和63年

6月4日 美術館開館5周年記念「田園風俗画展」に伴う資料調査(千葉・東京・静岡・京都・兵庫)学芸員 福井尚寿

6月15日 美術館開館5周年記念「田園風俗画展」に伴う資料調査(福岡市・久留米市)学芸員 福井尚寿・大隈博文

6月20日 美術館開館5周年記念「田園風俗画展」に伴う資料調査(漱木町・北方町)学芸員 福井尚寿・山崎和文

6月22日 「田園風俗画展」に伴う資料調査(武雄市・伊万里市・山内町)学芸員 福井尚

寿・大隈博文

6月25日 第35回九州芸術学会(福岡市)学芸員 松本誠一

6月29日 「田園風俗画展」に伴う資料調査(熊本市)学芸員 福井尚寿・大隈博文

7月1日 「田園風俗画展」に伴う資料調査(田主丸町・福岡市)学芸員 福井尚寿

7月9日 「田園風俗画展」に伴う資料調査 学芸員 福井尚寿

7月12日 第36回九州芸術学会(福岡市)学芸員 大隈博文

7月22日 「田園風俗画展」に伴う資料調査 学芸員 福井尚寿

6月28日 平成元年度美術館特別企画

6月29日 「鈴木照次 —— 染色の旅 —— 展」に伴う資料調査(大分県)学芸員 宮原香苗

8月23日 「鈴木照次 —— 染色の旅 —— 展」に伴う資料調査(鹿島市)学芸員 宮原香苗

8月24日 「鈴木照次 —— 染色の旅 —— 展」に伴う資料調査(鹿島市)学芸員 宮原香苗

8月25日 「鈴木照次 —— 染色の旅 —— 展」に伴う資料調査(鹿島市)学芸員 宮原香苗

11月26日 第37回九州芸術学会(長崎市)学芸員 福井尚寿

平成元年

3月15日 岡田三郎助作油彩画3点の調査(東京)学芸課長 小宮睦之、学芸員 松本誠一

8. ホール・画廊・研修室催しもの

美術館ホール利用状況

月別	利用団体数	延入場者数	音 楽	演 劇	洋舞・邦舞	映写会	そ の 他
4	13	3,508人	11		1		1
5	16	6,234	7	2			7
6	8	2,835	6			1	1
7	13	6,032	9	1	1		2
8	15	2,551	12	1		1	1
9	13	5,983	8	2		1	2
10	19	5,231	9			3	7
11	16	5,076	6		1	2	7
12	10	4,616	6	2		1	1
1	12	4,430	9		1	1	1
2	9	4,029	5	1		1	2
3	11	4,644	10				1
計	155	55,169	98	9	4	11	33

画廊・研修室利用状況

月別	展 覧 会			そ の 他	
	利用団体数	延会期日数	入場者数		
4	3	18	1,359	1. 研究会 8回 (デッサン教室等) 2. 展覧会準備・控室 1回 3. ホール催物控室 11回	
5	3	18	2,361		
6	1	6	714		
7	4	22	1,879		
8	6	29	1,949		
9	4	19	1,963		
10	4	22	3,375		
11	2	9	451		
12	2	10	659		
1	3	14	996		
2	4	22	4,837		
3	7	33	3,214		
計	43	222	23,757		計 20回

資料の概要 — 昭和63年度・美術館 —

1. 購入資料

作家名・作品名	制作年	数量	規 格	備 考
美術資料				
岡田 三郎助 藤山雷太像	1914	1	92.6×72.0	油彩・キャンバス
岡田 三郎助 花野	1917	1	65.2×90.8	油彩・キャンバス
北島 浅一 肘かけ椅子の裸婦	1919~ 1921	1	80.7×65.5	油彩・画布
北島 浅一 ポーズする裸婦	1919~ 1921	1	60.0×50.0	油彩・キャンバス
北島 浅一 初夏	年代未詳	1	65.2×53.0	油彩・キャンバス
北島 浅一 雪景	昭和初期	1	38.0×45.5	油彩・キャンバス
北島 浅一 荒磯	1935頃	1	21.8×27.0	油彩・板
大隈 武夫 のびゆく樹	1965	1	227.7×182.2	油彩・キャンバス
吉武 研司 肖像 — 熱さのせい	1984	1	182.0×227.4	油彩・キャンバス
立石 春美 宙	1986	1	152.0×200.0	紙・岩絵具
鍋島 紀雄 山麓	1952	1	17.8×48.0	紙・岩絵具
鍋島 紀雄 白花の行方	1962	1	32.5×66.2	紙・岩絵具
小崎 侃 葉隠	1988	1	30.5×45.5(版サイズ)	木版画・紙 36点1セット
牧野 宗則 天華	1988	1	34.8×49.7	木版画
田原 輝 勢至菩薩	1976	1	145.0×97.3	油彩・画布
田原 輝 阿弥陀三尊	1980	1	111.8×131.8	油彩・画布
工芸資料				
佐賀 ガラス フラスコ		1	口径8.0×胴径23.6×高さ33.7	ガラス
鈴田 照次 木版摺更紗着物 未央柳文	1981	1	桁69.0×着丈172.0×袖丈63.5	絹・綿子他
鈴田 照次 型絵染壁掛 面浮立図	1961	1	271.5×178.0	木綿地・型絵染
型絵染襖 竹文	1958	1	169.2×90.4	木綿地・型絵染4面2本
古賀 忠雄 三尊仏大皿	1970頃	1	径64.0	磁器

2. 寄贈資料

作家名・作品名	制作年	数量	規 格	備 考
立石 春美 静晨	1965	1	175.6×236.0	立石春美 神奈川県足柄下郡湯 河原町吉浜1865-7 岩絵具・紙
立石 春美 華岡青洲の妻	1967~ 1968	1	73.4×99.6	立石春美 神奈川県足柄下郡湯 河原町吉浜1865-7 岩絵具・紙
立石 春美 白い帽子	1970	1	147.5×208.5	立石春美 神奈川県足柄下郡湯 河原町吉浜1865-7 岩絵具・紙

作家名・作品名	制作年	数量	規 格	備 考
立石春美 瓶と女性	1971	1	208.0×147.0	立石春美 神奈川県足柄下郡湯 河原町吉浜1865-7 岩絵具・紙
立石春美 寂(じゃく)	1973	1	220.0×154.5	立石春美 神奈川県足柄下郡湯 河原町吉浜1865-7 岩絵具・紙
立石春美 華の幻想	1974	1	214.0×151.5	立石春美 神奈川県足柄下郡湯 河原町吉浜1865-7 岩絵具・紙
立石春美 井上傳女	1976	1	168.0×124.2	立石春美 神奈川県足柄下郡湯 河原町吉浜1865-7 岩絵具・紙
立石春美 宗白無庵先生像	1979	1	175.0×139.0	立石春美 神奈川県足柄下郡湯 河原町吉浜1865-7 岩絵具・紙
立石春美 灼	1980	1	183.3×137.8	立石春美 神奈川県足柄下郡湯 河原町吉浜1865-7 岩絵具・紙
立石春美 コンダクター	1982	1	155.0×168.0	立石春美 神奈川県足柄下郡湯 河原町吉浜1865-7 岩絵具・紙
立石春美 藍華	1983	1	153.8×203.8	立石春美 神奈川県足柄下郡湯 河原町吉浜1865-7 岩絵具・紙
大隈武夫 城跡の樹	1960	1	161.9×130.6	大隈武夫 千葉県松 戸市胡録台66 油彩・キャンパス
大隈武夫 聖地・ハルドワイド	1982	1	227.2×182.0	大隈武夫 千葉県松 戸市胡録台66 油彩・キャンパス
吉武研司 肖像 —— 恋人たち	1984	1	162.4×162.2	吉武研司 埼玉県浦 和市針ヶ谷4-1-23 油彩・キャンパス
鍋島紀雄 りんご	1968	1	21.3×30.5	鍋島蘭子 大阪府羽 曳野市はびきの 4-18-8 紙・岩絵具

作家名・作品名	制作年	数量	規 格	備 考
田 原 輝 古園の仏	1974	1	111.7×130.8	田原洋三 東京都練馬区富士見台 4-13-14 油彩・画布
田 原 輝 静 物		1	60.8×72.5	田原洋三 東京都練馬区富士見台 4-13-14 油彩・画布
田 原 輝 妙 高		1	61.0×72.5	田原洋三 東京都練馬区富士見台 4-13-14 油彩・画布
田 原 輝 月光菩薩		1	91.1×60.8	田原洋三 東京都練馬区富士見台 4-13-14 油彩・画布

3. 管理換資料

作家名・作品名	制作年	数量	規 格	備 考
北 島 治 樹 祀 <small>まつり</small>		1	100号	洋画
徳 安 和 博 束縛と抵抗		1	等身	彫刻
田 代 睦 子 省胎七宝 はなみずき文小鉢		1	高さ9.2×口径15.9	
秋 吉 実 夢 (トマト)		1	64×53	写真
横 谷 孝 史 ジャズマンは黒い靴 I・II		1	B全	デザイン

4. 資料の貸出状況

資 料 名	貸 出 先・目 的	貸 出・返 納
矢調べ、画室内、京都加茂川の景	東京国立近代美術館	63. 9. 26
	「写実の系譜」	64. 2. 18
古賀忠雄 (17点)	練馬区立美術館	63. 6. 11
	「古賀忠雄の知られざる世界」展	7. 16
バーナード城 他7点	久米美術館	9. 28
	「佐賀の生んだ明治の洋画家」	12. 18
鶏舎の朝	読売新聞社	10. 17
	「日展80年記念展」	11. 17
窓から	第3回国民文化祭兵庫県実行委員会	9. 4
	「第3回国民文化祭」	11. 4
現代想・開放・幽遠・遠幽・山麓	小川泰彦	8. 28
	「城秀男作品展」	9. 6
画室内・小代為重像	茨城県立近代美術館 「近代日本洋画の巨匠・黒田清輝」展	64. 4. 15～6, 25

佐賀県博物館及び美術館協議会

委員名簿（定数 14名）

任期：昭和63. 7. 25～平成2. 7. 24

区分	氏名	役職名	住所
学校教育関係者	野方辰美	佐賀県公民館連合会副会長	〒846 多久市東多久町大字別府6416
	山下久二*	佐賀県高等学校校長協会代表 (盲学校校長)	〒849-03 小城郡牛津町柿樋瀬778
	平安寺扶*	佐賀県小中学校校長代表 (思斉小校長)	〒845 小城郡小城町松尾3965
	古賀豊*	佐賀県理科教育振興会代表 (城東中校長)	〒840-01 佐賀市兵庫町大字瓦町1323
学識経験者	松本シゲノ	佐賀県地域婦人連絡協議会 会長	〒840 佐賀市嘉瀬元町2078
	大塚巖	佐賀県文化団体協議会会長	〒840 佐賀市本庄町本庄宮前1137-23
	吉田進一	佐賀美術協会理事長 (九州竜谷短大教授)	〒840-22 佐賀郡川副町犬井道47
	古庄健介*	佐賀県議会議員 (文教厚生常任委員会委員)	〒843 武雄市武雄町大字富岡7754
	三好不二雄	佐賀大学名誉教授	〒840 佐賀市赤松町11-11
	西谷正	九州大学文学部教授	〒813 福岡市東区千早6丁目1-914
	深川善次	佐賀大学教育学部教授	〒840-23 佐賀郡川副町南里557-3
	米倉利昭	佐賀大学教育学部教授	〒840 佐賀市赤松町7-13-302
	錦織亮介	北九州大学文学部教授	〒811-02 福岡市東区高美台1-443
	吉野徳親*	佐賀新聞社編集局長	〒840 佐賀市大財4-4-3

(注) *任期：昭和63. 7. 25～平成元年6. 20

佐賀県博物館及び美術館協議会開催状況

○昭和63年8月4日

- 議題 (1)昭和63年度予算について
 (2)昭和63年度事業計画について
 (3)その他

○平成元年3月18日

- 議題 (1)平成元年度予算について
 (2)平成元年度事業計画について
 (3)その他

博物館・美術館職員名簿（平成元。4。1現在）

課名	職名	氏名	課名	職名	氏名	
館長		出和人	学芸課	学芸課長	小宮睦之	
副館長 (課長事務取扱)		井上昭利		資料係	資料係長	宮崎武夫
副館長		尾形善郎			学芸員	松本誠一
総務課	庶務管理係	庶務管理係長			学芸員	蒲原宏行
		主査			学芸員	大隈博文
		主査			非常勤嘱託	浜野四郎
		主事		専門員 (係長事務取扱)	木下巧	
		主事		主査 (学芸員)	宮原香苗	
		事務員		学芸員	福井尚寿	
		事務員		学芸員	山崎和文	
		技術員	企画普及係			
非常勤嘱託	真子昭作					
					計 22名	

佐賀県立博物館 年報 第19号
佐賀県立美術館

発行年月日 平成元年10月1日

編集・発行 〒840 佐賀市城内1-15-23

Tel 0952-24-3947

佐賀県立博物館

佐賀県立美術館

印刷 有限会社 大同印刷